

Solid Edge ST9 における新しい機能

MU29005

所有権および制限付き権利について

本ソフトウェアおよび関連文書は、Siemens Product Lifecycle Management Software Inc.が所有するものです。

© 2016 Siemens Product Lifecycle Management Software Inc.

目次

所有権および制限付き権利について	2
Solid Edge ST9の概要	1-1
ユーザインタフェースにおける変更	2-1
アプリケーションメニューのデザイン変更	2-2
Solid Edgeのスタートアップ画面への変更	2-5
2D印刷の機能強化(用紙印刷)	2-6
3D印刷の機能強化(ソリッド印刷)	2-7
タブ付き文書システム	2-8
管理外文書のデータの管理	2-9
Solid Edgeファイルの共有のための新しいコマンド	2-10
検索のためにファイルのインデックスを作成する新しいコマンド	2-11
設定およびユーザー設定を管理するための新しい方法	2-12
アセンブリモデルの新しいスタイルパレット	2-13
スタイルの色見本のプレビュー	2-14
面およびビューのスタイルの変更の保存	2-16
パーツペインターによるParasolidボディの色のリセット	2-17
リストで最後に使用したコマンドを常に一番上にする	2-18
新しい教育機関向けテーマ	2-19
クラウド対応のSolid Edge	2-20
高解像度モニターをサポート	2-21
パーツにおける機能強化	3-1
材質テーブルの機能強化	3-2
マルチボディの切り取りの機能強化	3-3
マルチボディの丸みづけおよび面取り	3-4
シンクロナスモード中のオーダードボディの表示	3-5
ブロック	3-6
[エンクロージャ]コマンドは、パーツおよびシートメタルで使用可能になりました	3-7
シンクロナス移動、回転、および寸法の編集操作中に維持される面取り	3-8
新しい設計意図の幾何関係(オフセット面を維持)	3-9
シンクロナスパーツの関連性鏡映	3-10
複製コマンド	3-11
仮想頂点への穴の配置	3-12
[テーブルでパターン]コマンドの機能強化	3-13
ソリッドスイープフィーチャ	3-14
渦巻き曲線	3-15
シートメタルにおける機能強化	4-1
エッチングコマンドの機能強化	4-2
材質テーブルの機能強化	4-4

展開パターンで利用可能になった[移動]および[回転]コマンド	4-5
展開パターンでの不一致を示す現在のパスファインダ	4-7
ブロック	4-8
[エンクロージャ]コマンドは、パーツおよびシートメタルで使用可能になりました	4-9
新しい設計意図の幾何関係(オフセット面を維持)	4-10
複製コマンド	4-11
渦巻き曲線	4-12
アセンブリにおける機能強化	5-1
ブロック	5-2
アセンブリの幾何関係マネージャ	5-3
[コンタフランジ]コマンドがアセンブリで使用可能になりました	5-4
要素のプロパティの機能強化	5-5
アセンブリ内のユーザー設定要素プロパティ	5-6
[構成要素を複製]コマンドの機能強化	5-7
電気コネクタの移動の機能強化	5-8
[分離]コマンド	5-9
[表示を切り替え]コマンド	5-10
パイピングの強化	5-11
アセンブリ内で使用可能な[面を置換]コマンド	5-12
Standard Partsにおける機能強化	5-13
アセンブリ内で使用可能な[差]コマンド	5-14
アセンブリ内で使用可能な[厚みづけ]コマンド	5-15
[変数]における機能強化	5-16
スケッチにおける機能強化	6-1
[作図補助要素として作成]コマンド	6-2
[作図補助要素]コマンドバー	6-3
3D点コマンド	6-4
スティックフォント	6-5
新しいオーダードスケッチ表示オプション	6-6
注釈を表示コマンド	6-7
ドラフトにおける機能強化	7-1
省略ビューの関連性省略線	7-2
図面ビューの向きの変更	7-3
ダイレクト編集でのテーブルセルのフォントサイズの変更	7-4
複数の図面ビューのプロパティを同時に変更する	7-5
すべてのパーツリスト内のすべての要素を数える	7-6
断面ビューを編集してそのタイプを変更する	7-7
プロパティテキストによって参照される公開変数	7-8
大きな図面の高速更新	7-9
穴の数を示す穴表記	7-10
図面を比較するための画像解像度オプション	7-11
初期寸法並列距離	7-12
新しいコネクタの形状タイプ: 間隔	7-13
挿入するすべての画像ファイルの種類のリスト	7-14
新しいコマンド: 空のレイヤを削除	7-15

新しいコマンド: 背景を置換	7-16
新しいコマンド: 公差テーブル	7-17
複数のビューへの寸法の読み込み	7-18
親アセンブリからプロパティを読み込む	7-19
独立したアセンブリの図面ビューを作成するときの短いリスト	7-20
ドラフトでのユーザー設定要素プロパティの表示	7-21
表面性状記号のシェルフ線	7-22
対称直径寸法の機能強化	7-23
注釈の保存設定値の共有	7-25
テキスト編集のショートカットメニュー	7-26
テーブルデータ列の値の書式設定	7-27

文書管理における機能強化 8-1

Solid Edge Teamcenter Client	8-1
ソフトウェアの互換性	8-1
Teamcenterの基本設定	8-2
更新されたユーザーインターフェース	8-3
新しい[ファイルのプロパティ]ダイアログボックス	8-4
改善された[開く]ダイアログボックス	8-5
ユーザーセッション情報の更新	8-6
複数の改訂を開く	8-7
ワークフロー処理の開始	8-8
説明付の値リスト(LOV)	8-9
外部共同作業のサポート	8-10
Active Workspaceの機能強化のサポート	8-11
キャッシュアシスタントで並べ替え	8-12
アイテムタイプリストの表示順への機能強化	8-13
データ準備ツールの更新	8-14
新しい[使用内訳]オプション	8-15
構造エディタ - Teamcenter	8-15
インデントリストの並べ替え	8-15
Solid Edge構造エディタのスタンドアロンインストールの廃止	8-16
[スクロール固定]コマンドの削除	8-17
ユーザーセッション情報の更新	8-18
Solid Edgeのオプションの[管理]ページへのアクセス	8-19
Teamcenterに追加 - インタラクティブ	8-19
インデントリスト内での並べ替え	8-19
命名規則のサポート	8-20
ユーザーセッション情報の更新	8-21
Solid Edgeのオプションの[管理]ページへのアクセス	8-22
Solid Edge SP	8-22
より速い削除パフォーマンス	8-22
サインオフ情報の保持	8-23
パーツライブラリ内でピン固定された場所	8-24
アセンブリのすべての図面およびpdfを表示する新しいワンクリック操作	8-25
改善された全体的なSolid Edge SPユーザビリティ	8-26
データ準備ツールの更新	8-27
Insight	8-27
Insightソフトウェアの互換性	8-27

Insightのスタンドアロンインストールの廃止	8-29
インデントリストの並べ替え	8-30
データ準備ツールの更新	8-31
[View & Markup]および[改訂マネージャ]のヘルプ	8-31
[改訂マネージャ]の場所	8-31
シミュレーションの機能強化	9-1
方向性のある応力とひずみ結果のプロット	9-2
モーションにおけるアセンブリの解析での慣性逃げ	9-3
曲面メッシュ内の四角形要素の最大化	9-4
境界条件の[抑制/抑制解除]コマンド	9-5
小規模モデルで輻射荷重を処理する新しいオプション	9-6
変換機能における機能強化	10-1
ブロックのラベルで使用可能となったアスペクト比	10-2
AutoCAD変換でサポートされているユーザー設定の線種	10-3
AutoCADへのエクスポート時にブロック内のプロパティテキストを新たにサポート	10-4
Industry Foundation Class(.ifc)へのエクスポートの機能強化	10-5
アダプターを使用したJTのエクスポート	10-6
単純化ボディのインポートとエクスポートにおける機能強化	10-7
AutoCADファイルのインポートでサポートされる寸法の変換	10-8
エクスポート中のアセンブリの優先設定値の機能強化	10-9
AutoCADフォントを使用してメカニカルシンボルをエクスポートする	10-10
3D点のインポートおよびエクスポートのサポート開始	10-11
PDFで自動的に回転するテキスト	10-12
公差文字の高さのオーバーライド	10-13
JT変換中のエクスポートでの書出式	10-14
JT変換中に埋込まれたボディに書出された親プロパティ	10-15
SolidWorksデータ移行の機能強化	10-16

第 1 章 Solid Edge ST9の概要

Solid Edge ST9リリースのハイライトの一部を以下に取り上げます。すべての機能強化の詳細については、「新しい機能」というブックを参照してください。

ユーザーインターフェースにおける主要点

アプリケーションメニューのデザイン変更

アプリケーションメニューが同じタッチフレンドリーなレイアウトになり、PowerPoint、Excel、WordなどのMicrosoft Office製品で文書のプロパティを作成、保存、印刷、および設定するために使用される機能を提供するようになりました。

Solid Edgeの開始ページの変更

Solid Edgeの起動時にお客様のホームページに表示する内容を指定するために、複数のオプションを使用することができます。

管理外文書の文書の管理

コマンドリボン上の新しい**データ管理**タブで、Solid Edge内の文書の管理を支援する、組込みのデータ管理ツールが提供されます。SharePointまたはTeamcenterの文書管理で提供される自動プロセスを必要としない場合、これらのコマンドを使用します。

簡素化された付加製造

アプリケーションメニューの新しい**ソリッド印刷**ページから、3次元印刷モデルを直接生成することができます。

[改訂マネージャ]の場所

[改訂マネージャ]は、名前がデザインマネージャに変更されました。また全面的な見直しが行われて、ユーザビリティが向上し、最新のルックアンドフィールを備えるようになりました。

詳細については、**ユーザーインターフェイスの変更**を参照してください。

データ共有とコラボレーションのハイライト

設定およびユーザー設定の共有

Solid Edgeでは、設定およびユーザー設定に関連付けられている情報を1つのマシンから収集して、その情報を他のマシンに展開するのが容易になりました。レジストリ設定、サーバーに保存されているテンプレート、AppDataフォルダ内のテーマ、およびPreferencesフォルダにあるユーザー設定のファイルを取込むことができます。詳細については、**ユーザーインターフェイスの変更**を参照してください。

文書の検索と共有

アプリケーションメニューの2つの新しいコマンドの**高速検索**と**バックアンドゴー**は、文書のプロパティに基づいてファイルを検索し、ベンダーや顧客と共有するために関連するファイルのセットをパッケージします。

詳細については、**Solid Edgeファイルを共有するための新しいコマンドと検索用のファイルのインデックス作成のための新しいコマンド**を参照してください。

クラウド対応のSolid Edge

新しいアプリケーションのSolid Edge Cloud Gatewayを使用すると、複数のマシンからSolid Edgeを使用することができます。詳細については、[クラウド対応のSolid Edge](#)を参照してください。

View & Markupの場所

文書の共同レビュー、マークアップ、および配信用のView & Markupアプリケーションを、Solid Edgeのコマンドリボンで利用できるようになりました。**ツールタブ → 環境グループ**、および**データ管理タブ → ツールグループ**(または**Teamcenterタブ → ツールグループ**)で、**View & Markup**コマ

ンドを探します。

アセンブリにおける主要な強化

システムおよびユーザー設定要素プロパティ

システム(組込み)要素プロパティの値をオーバーライドすることができます。また、グローバルXML定義ファイルで独自のユーザー設定要素プロパティを定義することができます。

アセンブリの幾何関係の表示と編集

アセンブリ幾何関係マネージャには、アセンブリの幾何関係のテーブルが表示され、幾何関係を変更する方法が用意されています。

アセンブリ環境で機能強化されたシンクロナスツール

面を置換、**厚みづけ**、**差**、**コンタフランジ**、および**複製構成要素**コマンドを使用すると、アセンブリのコンテキストでパーツおよびシートメタルのオブジェクトを作成および配置するのを補助することができます。

XpresRoute配管

機能強化には、設定値の保存、Standard Partsライブラリの優先されるフィッティング、壁の厚さ、および改善されたコンパニオンフランジが含まれます。

詳細情報は、[アセンブリの機能強化](#)を参照してください。

ドラフトの主要な強化

図面ビュー

セクションのタイプを断面図面ビューで、省略線を省略ビューで、図面ビューの向きを主投影図面ビューで直接編集することができます。

パーツリストとテーブル

アセンブリに追加されたユーザー設定の要素のプロパティの値を、パーツリスト列と関連付けられている引出テキストボックスに表示することができます。新しい**公差テーブル**コマンドは、はめ合い寸法からの値と公差を示すテーブルを生成します。

寸法と注記

対称直径寸法を配置するためのクリック回数が少なくなります。穴の数を示す穴表記。重複が発生するときでも、長さ寸法を複数の図面ビューに読み込むことができるようになりました。

詳細情報は、[ドラフトの機能強化](#)を参照してください。

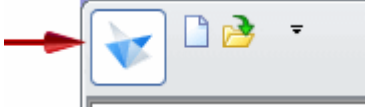
第 2 章 ユーザインタフェースにおける変更

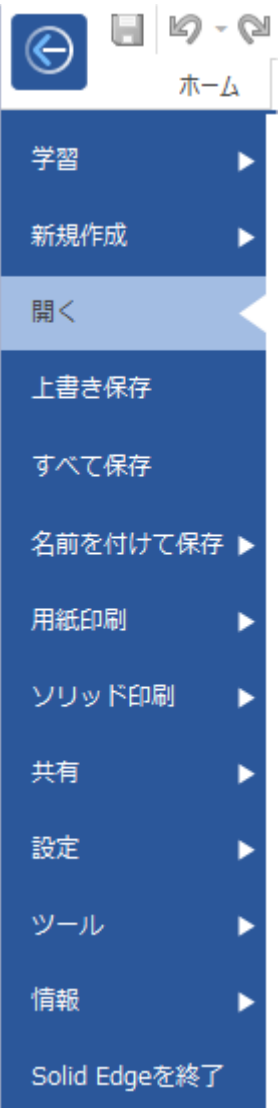
アプリケーションメニューのデザイン変更

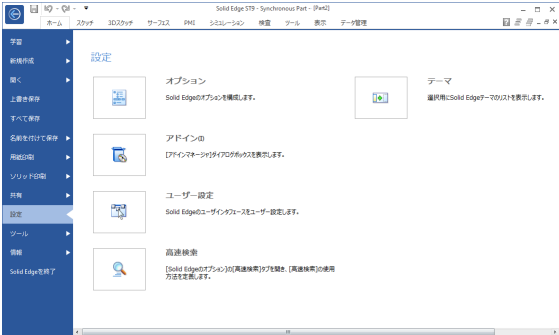
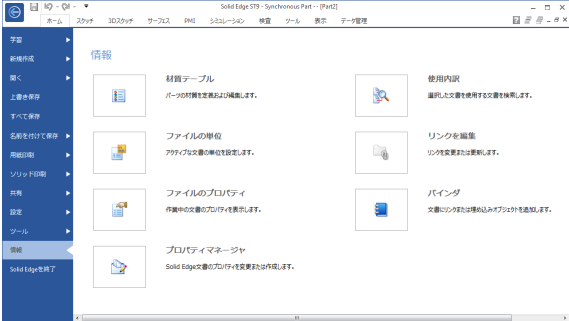
アプリケーションメニューは、タッチフレンドリーなMicrosoftのバックステージレイアウトと機能を使用するために再設計されました。これは、MicrosoftがPowerPoint、ExcelおよびWordなどのOffice製品で使用するのと同じインタフェースです。バックステージはファイルおよびそれらのファイルに関するデータを管理する場所で、ユーザ定義のファイルプロパティと材質を作成、保存、追加し、オプションを設定します。

以下の機能強化が行われました。

- ST9で、デフォルトの配色は白です。その他のオプションは、**ライトグレー**、**ダークグレー**、または**黒**です。**Solid Edgeのオプション**ダイアログボックスで、**ヘルパータブのアプリケーション配色リスト**を使用して、配色を変更することができます、
- アプリケーションメニュー**からアクセス可能なコマンドを、**コマンドリボン**、**ラジアルメニュー**、または**クイックアクセスツールバー**などのユーザインタフェースの他の領域に追加できるようになりました。これを行うには、**ユーザー設定**ダイアログボックスを開いて、**ユーザー設定する環境**を選択した後、**コマンドの分類**: → **システムメニュー**を設定します。
- アプリケーション**を選択すると、アクティブな文書で実行できる内容に付随するすべての機能が、アプリケーションウィンドウの左側に沿ってタブ付きページとして表示されます。バックステージページで使用可能なコマンドおよびオプションは、文書の種類と、それが管理文書か非管理文書かによって異なります。文書が開かれていない場合は、オプションはさらに限定されます。

対象操作	実行内容
アプリケーションメニューを表示します。このメニューからすべてのファイルレベルの機能を利用することができます。	アプリケーションをクリックします。 
タブ付き文書ビュー内のアクティブな文書に戻ります。	クリックするタブ:  または、ホームタブなど、コマンドリボンのタブをクリックします。
バックステージ領域の関連する機能のページを表示します。	アプリケーションメニューで、学習、新規作成、開く、および名前を付けて保存などの、矢印インジケータを持つタブにカーソルを合わせるかまたはそれをクリックします。

対象操作	実行内容
	注記 保存、すべて保存、およびSolid Edgeを終了などの、矢印インジケータのないアプリケーションメニューのアイテムはコマンドを直接起動します。 

対象操作	実行内容
Solid Edgeオプションダイアログボックスを開いて、表示するツールチップのタイプを指定します。 ユーザー設定ダイアログボックスを開いて、ツール、コマンド、およびキーボード機能のデフォルトアレンジメントをカスタマイズします。 Solid Edgeのテーマを変更します。	設定タブをクリックします。 
これらの頻繁に使用するダイアログボックスを開きます。 ・ 材質テーブル ・ ファイルのプロパティ ・ プロパティマネージャ	情報タブをクリックします。 

Solid Edgeのスタートアップ画面への変更

新しいMicrosoftバックステージ領域へのアプリケーションメニューのファイル関連機能の移動にともない、Solid Edgeのスタートアップ画面が、現在のデザインニーズに合わせて変更可能なスタートページとして再設計されました。Solid Edgeを開くときに表示する幾つかのページまたは文書のオプションの1つを選択できるようになりました。これにより、作成や編集をより速やかに開始することができます。学習ページ(下図)には、Solid Edgeのヘルプとトレーニングへのリンクを設けています。これは、Solid Edgeを最初にインストールしたときのデフォルトの開始ページとなります。

開始ページオプションを変更するには、**アプリケーション → 設定 → オプションコマンド → Solid Edgeのオプション**ダイアログボックス → **ヘルパータブ**に移動します。



2D印刷の機能強化(用紙印刷)

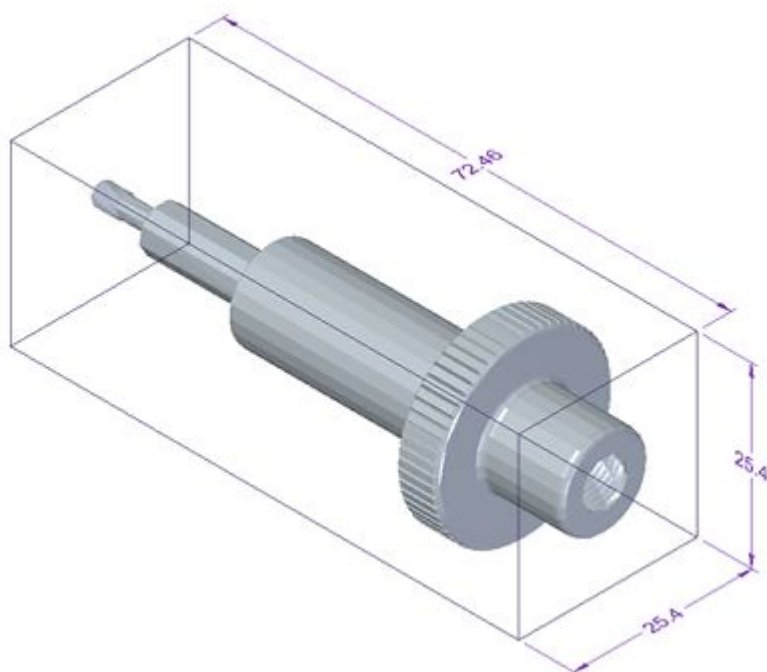
アプリケーションメニューの新しいレイアウトには、同様の関数をグループ化し、追加メニューを操作せずにそれらを可視化して利用できるという利点があります。アプリケーションメニューの新しい**用紙印刷**ページには、Solid Edge 文書を用紙またはファイルに出力するための2D印刷コマンドと関連機能がすべて含まれています。



3D印刷の機能強化(ソリッド印刷)

アプリケーションメニューの新しいソリッド印刷ページは、次の3D印刷関連コマンドと、パーツ、シートメタル、またはアセンブリモデルの3Dプロトタイプを生成するために必要なその他の機能をグループ化します。

- ・ **変換精度オプション**は、モデル上のテセレーションを制御します。
- ・ **プレビューコマンド**は、製品の印刷のために送信される前に、モデルの外観と範囲を表示します。

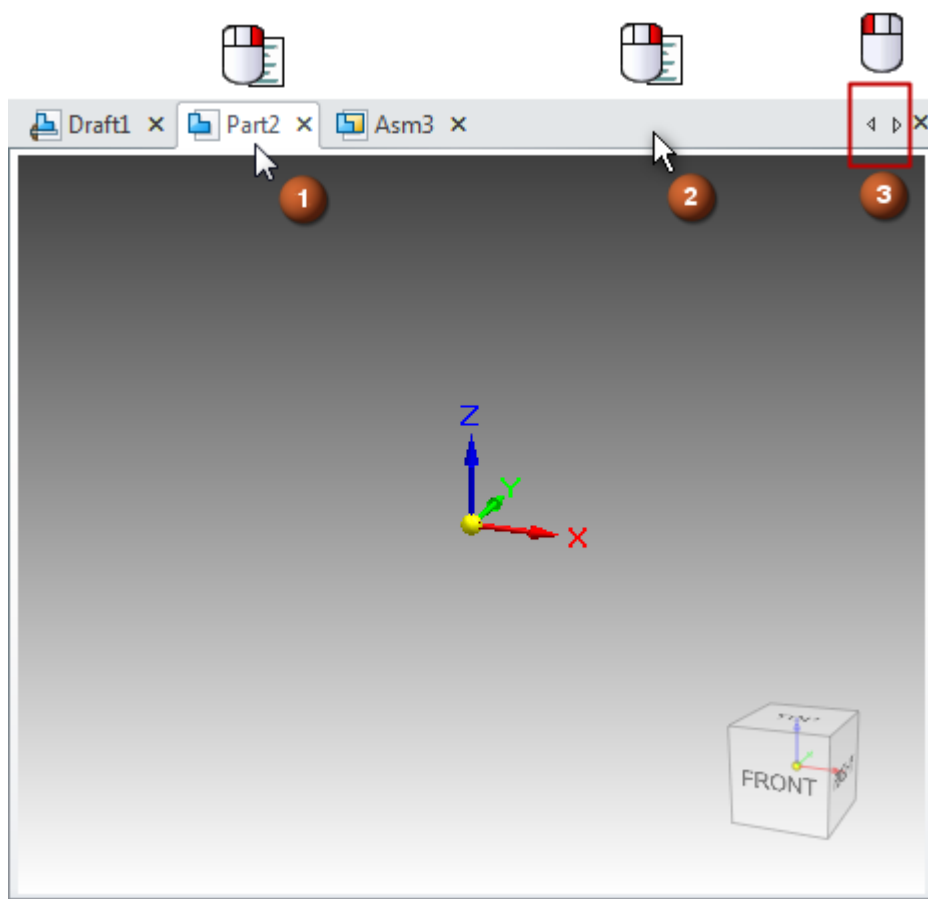


- ・ **ファイルへ出力コマンド**は、**STL形式**にファイルを保存します。
- ・ **3Dビルダコマンド**は、3Dプリンタに.stlファイルを送信します。

タブ付き文書システム

すべての環境の新しいタブ付き文書インタフェースを使用すると、タブをクリックするだけで、開いている文書ウィンドウ間で簡単に切り替えることができます。以前は表示タブ → ウィンドウグループ上に移動する必要があったコマンドは、新しいタブ付きインタフェース内で直接利用できるようになりました。

- ・ [ドキュメント]タブ(1)またはタブ一覧バー(2)を右クリックすると、新しい2つのコンテキストメニューが使用可能です。これらにより、**文書フォルダを開く**および**フォルダパスをコピー**などのいくつかの新しいコマンドを含む、文書ウィンドウを操作するためのコマンドに迅速にアクセスすることができます。
- ・ 多くの文書を開いているときや、複数のウィンドウで同じ文書を開いているときには、左右の矢印制御(3)を使用して、文書ウィンドウをスクロールすることができます。また、マウスのスクロールホイールを使用することもできます。
- ・ タブをドラッグして、タブ一覧バーの表示順序を変更することができます。



管理外文書のデータの管理

コマンドリボンの新しい**データ管理**タブには、Solid Edge内に組み込みのデータ管理ツールが備えられています。**データ管理**タブのコマンドは、SharePointまたはTeamcenterの文書の管理に備えられている自動処理を使用しない3D設計環境で作業しているユーザー向けに提供されています。

これらの基本ツールは以下を行います。

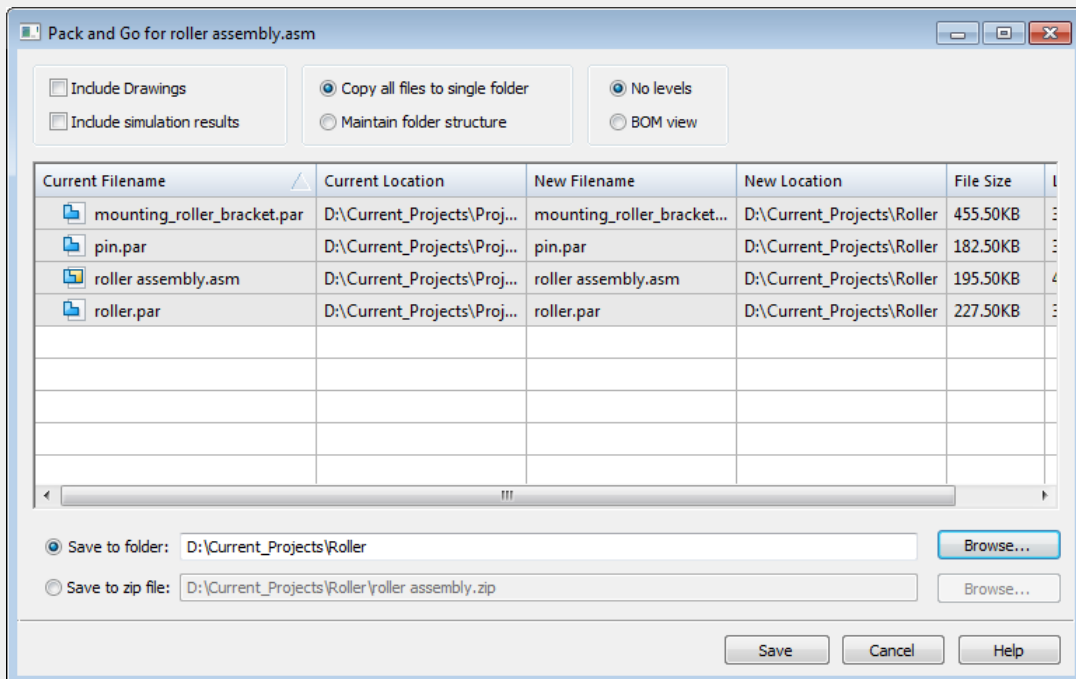
- ・ 最新の文書情報の提供
- ・ ファイルとパーツ番号の重複の防止
- ・ 関連する文書の迅速な検索
- ・ ファイルを使用するあらゆる場所での検索
- ・ View & Markupとデザインマネージャクラウドファイルサービスを使用しての文書の共有、マークアップ、および改訂

Solid Edgeファイルの共有のための新しいコマンド

新しい**パックアンドゴー**  コマンドは、プロジェクトの文書の完全なセットをコピーしてパッケージし、これによりこれらの文書を電子メールで顧客やベンダーに送信して共有できるようになります。**パックアンドゴー**ダイアログボックスで、オプションを設定して以下を実行することができます。

- ・ 既存のフォルダ構造の保持
- ・ フォルダ構造の展開
- ・ シミュレーション結果やドラフトファイルなどの追加のファイルの包含
- ・ .zipファイルの作成または上書き

例



このコマンドは、デザインマネージャ内だけでなく、**アプリケーションメニュー** → **共有タブ**でも使用できます。

検索のためにファイルのインデックスを作成する新しいコマンド

Solid Edge文書のプロパティに基づいた検索のパフォーマンスを向上させるために、**アプリケーションメニュー** → **設定**タブで、新しい**高速検索**  コマンドが使用できるようになりました。

高速検索コマンドは、Solid Edge内でMicrosoftWindowsのインデックスベースの検索を実行します。このコマンドをクリックすると、新しい**[高速プロパティ検索]ページ**(**[Solid Edgeのオプション]ダイアログボックス**)が表示されます。このページを使用して、検索のためにインデックスを作成するSolid Edgeフォルダの場所とプロパティを指定します。ローカルコンピュータやネットワークファイルサーバーのインデックスを作成して、検索することができます。

高速検索では、以下のタイプの文書のプロパティが識別されます。

- ・ 標準Solid Edgeプロパティ、例えば、文書番号、改訂番号、プロジェクト名、および文書のステータス情報。
- ・ テンプレートと**propseed.txt**ファイルで定義したユーザー設定プロパティ。

注記

ファイルサーバーを使用している場合、Solid Edgeインストール画面で**高速検索**リンクを選択することで、最初にインストールウィザードを開始します。これにより、**開始**メニューに次の2つの新しいコマンドが追加されます。

この [開始]メニューのオプション の使用	実行内容
 高速検索の構成	高速検索の構成ユーティリティ(SearchConfig.exe)を起動します。このユーティリティは、ネットワークファイルサーバー上の高速検索の場所とプロパティの場所を設定します。
 重複するファイルのレポート	Solid Edgeのコマンドラインユーティリティ(DupFileReport.bat)を実行します。このユーティリティは、標準プロパティ以外のSolid Edgeファイルの特性を考慮することにより、重複するファイルの重み付きリストを備えた拡張された重複ファイルレポートを生成します。 このユーティリティに関連する追加のファイルがSolid Edgeユーザー設定フォルダに配信されます。

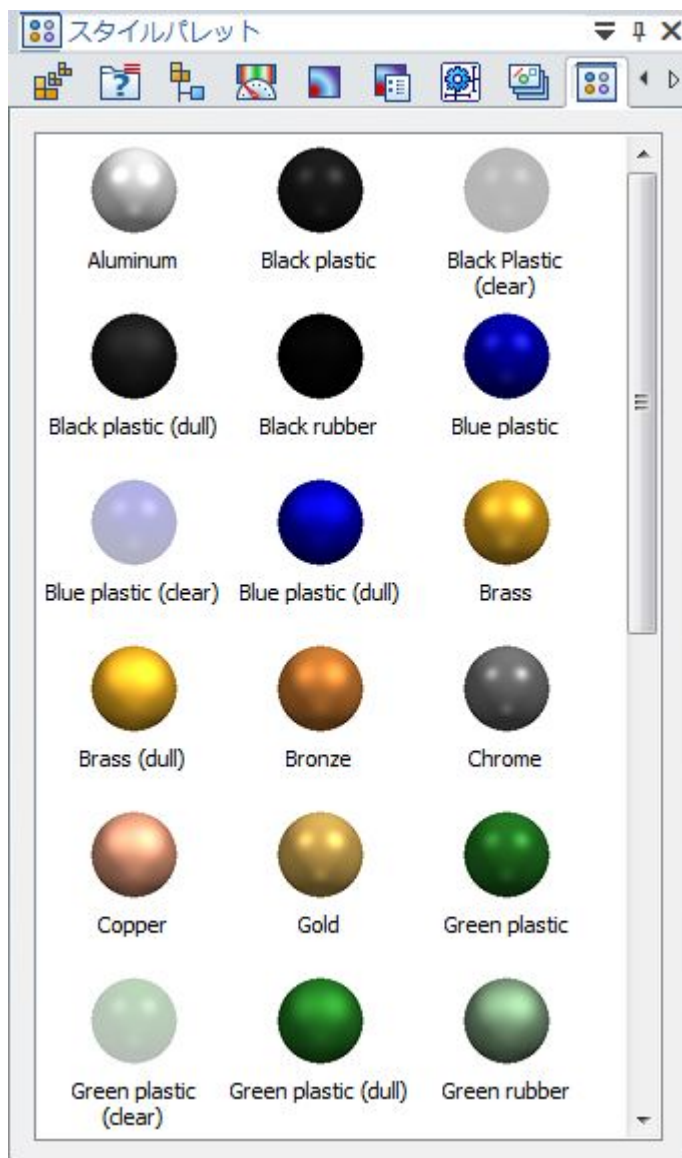
設定およびユーザー設定を管理するための新しい方法

設定およびユーザー設定ウィザード、または **Solid Edge** のオプションダイアログボックス → **ユーザー情報** ページを使用して、設定およびユーザー設定に関連付けられている情報を1台のマシンから取込み、それ以外のマシンにその情報を展開することが容易にできるようになりました。

レジストリ設定、サーバーに保存されたテンプレート、**AppData** フォルダ内のテーマ、および **ユーザー設定** フォルダにあるカスタマイズされたファイルをキャプチャすることができます。

アセンブリモデルの新しいスタイルパレット

新しいスタイルパレットは、アセンブリのパスファインダタブセットでを使用して、モデルに色を適用できます。アセンブリモデル内のパーツやフィーチャにスタイルパレットから材質をドラッグすることができます。ボディは、材質の色が適用されていることを示すためにハイライトされます。

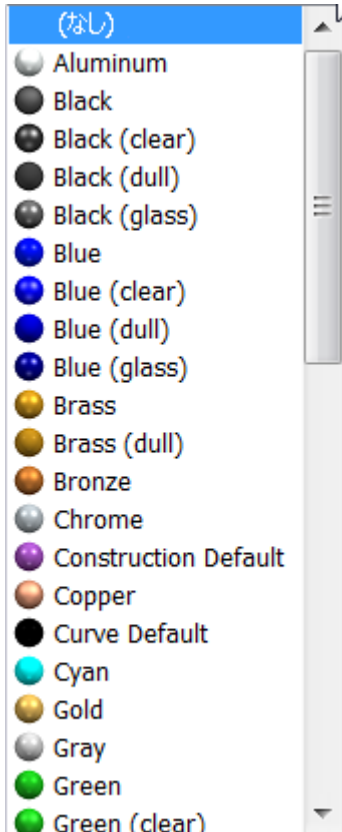


スタイルの色見本のプレビュー

面のスタイル、塗りつぶしパターン、ハッチング、および材質を選択するダイアログボックスおよびコマンドバーに色見本のプレビューが表示されるようになりました。以前は、色のオプションは、図形プレビューなしの名前のみでリストされていました。

ここでは、色見本のプレビューが使用可能な場所の一部を示します。

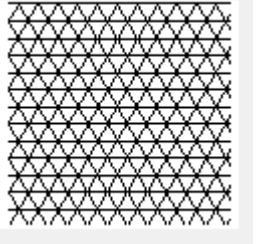
- ・ **パーツペインター**コマンドの場合、コマンドバーの**スタイル**リストから。



- ・ **材質テーブル**では、**材質のプロパティ**タブの**面のスタイル**リストから。
- ・ **アセンブリ環境**では、**面のオーバライド**コマンドの横にあるリボンの**面のスタイル**リストから。



- ・ **カラーマネージャ**ダイアログボックスでは、**基本スタイル**リストから。
- ・ **スタイル**コマンドの場合、**スタイル**ダイアログボックスの以下の**スタイルのタイプ**に対して。

スタイルタイプ	例
面のスタイル	
間隔	
ハッチング	

面およびビューのスタイルの変更の保存

モデル面の外観(色、輝き、反射、テクスチャなど)とモデルの3次元ビュー(照明、背景、影を落とすなど)に対して行った変更を保存できるようになりました。

- ・ 現在の3次元ビューのスタイルまたは面のスタイルへのオーバーライドを、**ビューのオーバーライド**ダイアログボックスと**面のオーバーライド**ダイアログボックスで、**名前を付けて保存**ボタンを使用して保存することができます。
- ・ **ビュータブ** → **スタイルグループ** → **スタイルコマンド**を使用して適切なスタイルのタイプを選択して、新しく作成したスタイルを変更することができます。

パーツペインターによるParasolidボディの色のリセット

パーツペインターコマンドバーの新しいオプションにより、モデルのフィーチャ、面、およびボディから、それまでに適用した色をすべて除去することができます。**スタイルの置換**オプションにより、デフォルトのモデルの色がモデル全体に適用され、すべての他の色および色のオーバーライドが除去されます。

このオプションは、インポートされた、または変換されたモデル内の、**パーツペインター**で適用する色の変更に応答していないParasolidボディの問題を解決します。

リストで最後に使用したコマンドを常に一番上にする

ここでは、コマンドリボンのリストから最後に選択したコマンドを、デフォルトのコマンドとして常に一番上に表示するように指定することができます。

例

このオプションを選択すると、デフォルトのコマンド**接する弧**は、スタックの一番上にある選択されたコマンド**弧の中心点**でに置換されます。



新しいオプション**最後に使用したコマンド(ドロップリスト内)を手前に表示**は、Solid Edgeのオプションダイアログボックスのヘルパータブにあります。このオプションは、すべての環境に影響します。

新しい教育機関向けテーマ

このリリースには新しい教育機関向けテーマが用意されており、これらのテーマを選択すると、初めて使用されるユーザー向けのSolid Edgeの学習プロセスを簡素化するのに役立ちます。このテーマは、単純化したインタフェースを使用してSolid Edgeを初めて学習するために十分と考えられる、使用するツールとコマンドを減らした単一タブのインタフェースを提供します。

完備されたSolid Edgeコマンドは、専門テーマを選択するだけで利用できます。

これらの教育機関向けテーマは、Solid Edge教育機関向けライセンスで作業している教育者や学生のみが選択することができます。この時点では、2つの新しいテーマのセットが導入されています。

最初のステップ

このテーマは、初めにSolid Edgeを学習する経験の浅いモデル管理者が使用する統合したツールとコマンドのセットを、単一のタブで提供するように設計されています。このテーマは、シンクロナスモデリング技法を重視した、パーツ、アセンブリ、およびドラフト技能を学習するための単純化したインタフェースを提供します。

次のステップ

このテーマは、より意欲的なシンクロナスモデリング技能に取り組む経験の浅いモデル管理者向けに、より多くのツールとコマンドを提供します。

一般的なテーマとテーマの選択および適用方法の詳細については、Solid Edgeテーマを参照してください。

クラウド対応のSolid Edge

新しいアプリケーションのSolid Edge Cloud Gatewayを使用すると、複数のマシンからSolid Edgeを使用することができます。データはローカルで使用することも、またはDropboxを介してデスクトップとインターネットユーザー間で同期させることもできます。

Solid Edge Gatewayにはダッシュボードが備えられており、これを使用して以下を実行できます。

- ・ Webkeyアカウントを使用したログイン
- ・ Solid Edgeを実行するためのライセンスの取得
- ・ クラウドを介したマシン全体の個人およびグループの基本設定の管理
- ・ Solid Edge製品更新メンテナンスパックのダウンロードとインストール

詳細については、Solid Edgeインストールおよびライセンスガイドを参照してください。

高解像度モニターのサポート

Solid Edge ST9では、高解像度モニター(3K、4K、およびそれ以上)に表示されるビットマップ、コントロール、およびその他の図形要素のサポートが改善されました。高解像度モニターのサポートはMicrosoft Windows 7とWindows 10の両方に対して用意されていますが、Windows 10は優れた1インチあたりドット数(DPI)のスケーリング機能を提供します。

DPIが170ピクセル以上のモニターを使用する場合、次の2つの場所の設定を調整することをお勧めします。

- ・ Microsoft Windowsの**コントロールパネル**を使用して、デスクトップ全体のプライマリDPIスケーリング解像度を設定します。
- ・ **Solid Edgeのオプション**ダイアログボックスの**ヘルパー**タブで、Solid Edge設計ツールの相対サイズを調整します。

Windows画面の解像度の設定

Microsoft Windows 7の**開始メニュー**から、次の操作に進みます。

1. **コントロールパネル** → **デスクトップのカスタマイズ** → **ディスプレイ**
2. 左側のリンクウィンドウで、**カスタムテキストサイズの設定(DPI)**をクリックします。
3. **カスタムDPI設定**ダイアログボックスで、以下を選択します。

[標準サイズに対してこの割合で大きさを変える]を「200%」に設定する

注記

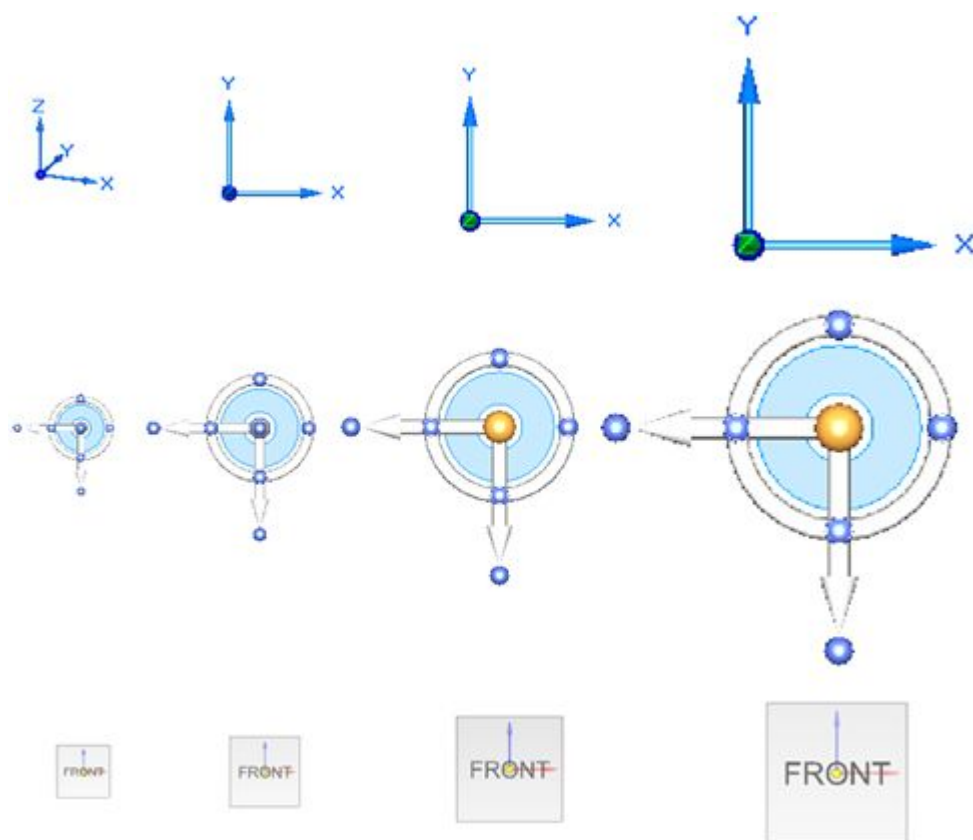
DPIスケーリングのためのコントロールパネルの場所はWindows 10と同じですが、追加のオプションが用意されています。

Solid Edge設計ツールの相対サイズの調整

複数の画面解像度(4Kを含む)を操作する場合、操縦ハンドル、OrientXpresツール、および[クイックビューキューブ]コントロールに対してより大きい表示サイズを選択することができます。これにより、さまざまなサイズの画面での作業が容易になります。

1. Solid Edgeでは、**アプリケーションメニュー** → **設定タブ** → **オプションコマンド** → **ヘルパー**タブ(**Solid Edgeのオプション**ダイアログボックス)に進みます。
2. **全般**セクションで、**操縦ハンドル**、**OrientXpres**、および**ビューキューブサイズ**のリストからサイズを選択します。

サイズのオプションは、左から右に**小**(0.75インチ)、**中**(1.00インチ)、**大**(1.25インチ)、および**特大**(1.50インチ)です。



第 3 章 パーツにおける機能強化

材質テーブルの機能強化

材質テーブルの有用性がさらに強化されました。

材質テーブルダイアログボックスの変更箇所は次のとおりです。

- ・ プロパティが最新でない材質は、ハイライトされます。新しいコマンド、**材質のプロパティを更新**  では、現在のパーツやシートメタルの材質定義を更新することができます。
- ・ ダイアログボックスのハンドルのサイズ変更。
- ・ 昇順または降順の材質名による材質ツリーの並べ替え。
- ・ 材質ツリーのアイテムを、材質グループ、材質ライブラリ、または材質名別のリストで表示。
- ・ 材質プロパティまたはゲージプロパティを変更すると、物理特性は自動的に更新。
- ・ 面スタイルおよび塗りつぶしスタイルの画像プレビュー。新しい面のスタイルや塗りつぶしスタイルを作成することができる[スタイル]ダイアログボックスへの直接アクセス。

材質テーブルダイアログボックス外部の機能強化は次のとおりです。

- ・ **全般タブ (Solid Edge オプションダイアログボックス)**の新しいオプションでは、パーツ文書を開いたときに、最新でない材質やゲージをチェックするかどうかを指定します。
- ・ **パスファインダの材質テーブルショートカットメニュー**では、新しいコマンド**最新でない材質をチェック**  を利用することができます。この機能は、アセンブリの**物理特性マネージャ**ダイアログボックスでは、ボタンとしても利用することができます。
- ・ **パスファインダ**では、最新でないステータスのインジケータが材質名の前に指定されます。
- ・ モデルに使用する材質は、変数テーブルに自動的に追加されます。そのため、これらの材質は、**ファイルのプロパティ**ダイアログボックスではカスタムプロパティとして、またドラフト環境では公開された変数プロパティとして参照することができます。
- ・ 材質をコピーして貼り付けるとき、重複した名前を抽出します。材質を置換えてコピー、コピーしない、または名前を変更してコピー、というオプションがあるダイアログボックスもあります。

マルチボディの切り取りの機能強化

マルチボディのモデリングでは、切り抜きフィーチャが交差するデザインボディとどのように相互作用するかを制御することができます。



(1、2)	切り取りフィーチャの適用オプションは、突き出しオプションが範囲=指定範囲(1)および追加/切り取り=切り取り(2)に設定されているときにのみ使用可能です。
(3)	押し出しコマンドバーの切り取りフィーチャを適用オプションを使用します。
(4)	アクティブなボディを切り抜きオプションは、アクティブなデザインボディのみを切り取ります。
(5)	選択したボディを切り取りオプションは、切り取りによって交差するすべてのボディを切り取ります。交差するボディは、すべて緑色でハイライトされます。デザインボディを選択している際にCtrlキーを押すことで、交差するボディの選択を解除することができます。

モデルにマルチボディが含まれる場合、以下のコマンドには、切り取りフィーチャを適用オプションを利用することができます。

オーダード

- ・ 切り取り
- ・ 回転で切り抜き
- ・ 穴

シンクロナス

- ・ 追加
- ・ 回転掃引
- ・ 穴

注記

直線の切り取りの場合は、次の要素まで以外のすべての範囲タイプが有効です。

マルチボディを通過する切り取りフィーチャをパターン化または鏡映するときに、パターンはマルチボディ選択を維持します。

マルチボディの丸みづけおよび面取り

異なるマルチボディから辺を選択して、単一の丸みづけまたは面取りフィーチャを作成することができるようになりました。

シンクロナスモード中のオーダードボディの表示

オーダードボディ表示設定があるため、完成したモデルの透明表現はシンクロナスモード中に表示されます。

ブロック

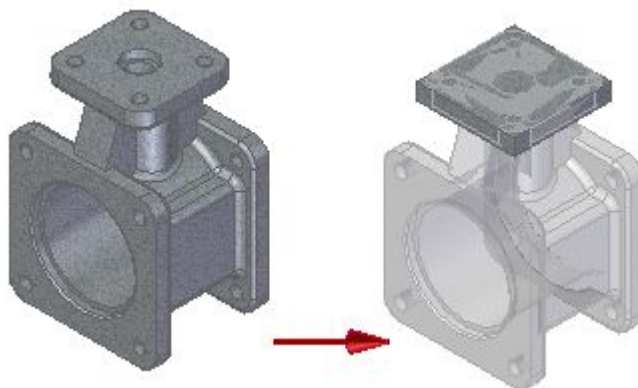
- ・ ブロックは以下の環境で使えるようになりました。
 - オーダードパーツ
 - オーダードシートメタル
 - アセンブリレイアウト

共通のフィーチャのプロファイルを再描画ではなく、ブロックとして追加することができます。各環境は、ブロックライブラリにアクセスすることができます。

- ・ これらの環境では、**開く**および**ブロックを編集**コマンドは使用することはできません。この問題を回避するには、**ブロックを解除**を使用して編集してから、ブロックを再作成します。

[エンクロージャ]コマンドは、パーツおよびシートメタルで使用可能になりました

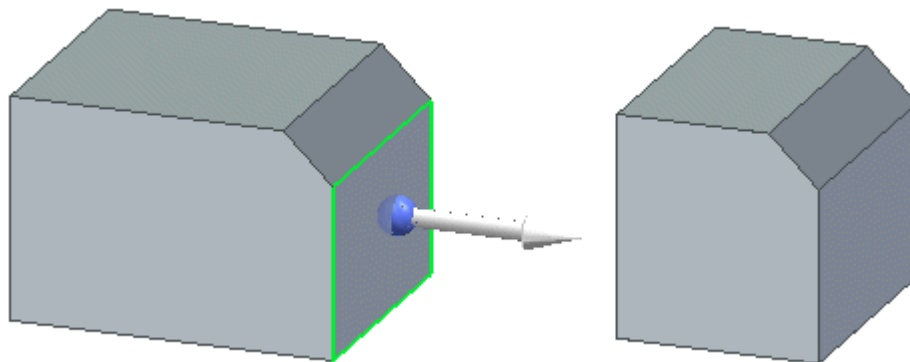
エンクロージャコマンドがパーツおよびシートメタル環境で使用可能になり、選択したパーツ幾何形状の周囲でボックスまたは円筒を作成することができるようになりました。



新しいエンクロージャは、それぞれ新しいボディをモデルに追加します。

シンクロナス移動、回転、および寸法の編集操作中に維持される面取り

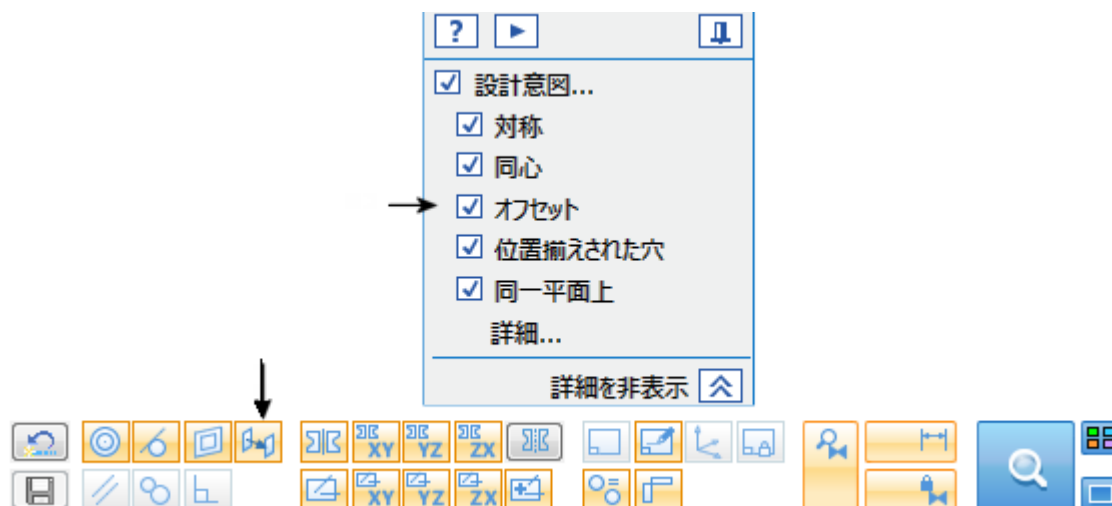
面取りは、シンクロナス移動、回転、および編集操作中に認識および維持されるようになりました。



新しい設計意図の幾何関係(オフセット面を維持)

オフセット面を維持(I)という新しい設計意図幾何関係が使用可能です。

Solid Edgeは、リブ、複合ウェブ、側壁などのフィーチャを検出できるようになりました。設計意図を維持します。この新しいオプションは、パーツに組み込まれた設計意図を維持するのを支援するために使用されます。



シンクロナスパーツの関連性鏡映

パーツのシンクロナス鏡映コマンドが、シートメタルのシンクロナス鏡映コマンドと同様の動作をするようになりました。パーツの鏡映コマンドに、鏡映を親フィーチャに関連付ける**持続オプション**(1)が備えられました。



パスファインダでは、関連付き鏡映フィーチャには、フィーチャ名の前に固定アイコン(2)が付きます。関連付きでない鏡映には、固定アイコンは付きません。



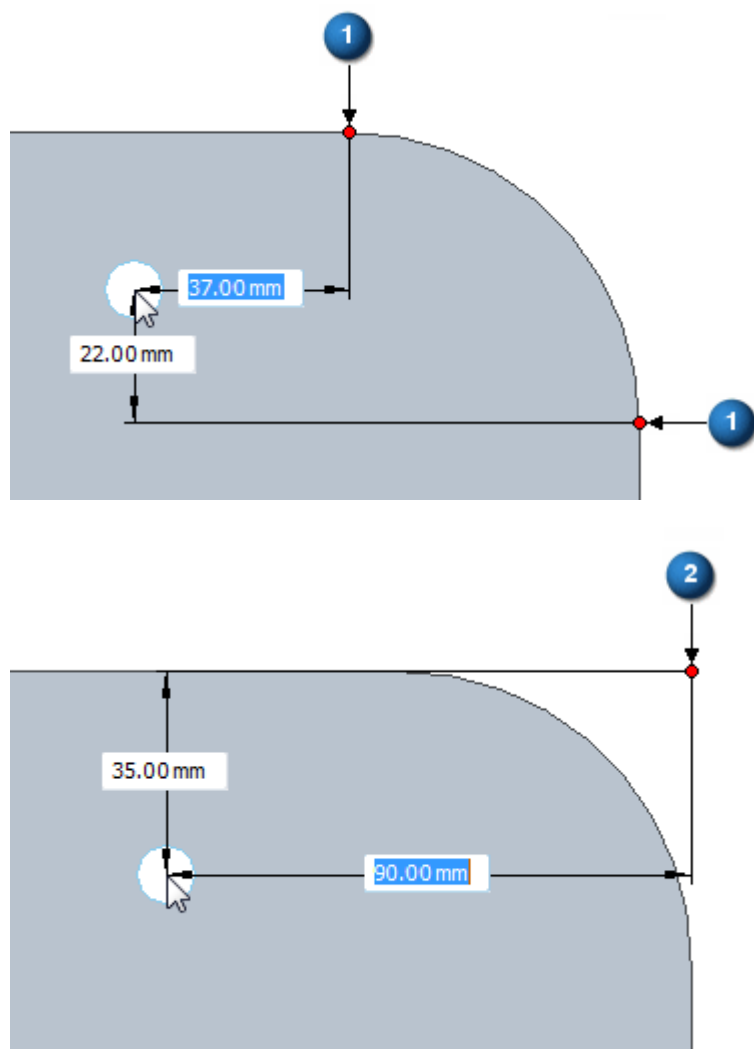
複製コマンド

新しい複製コマンドをパーツおよびシートメタル環境で使用して、ブロックおよび座標系を使用する複製の幾何形状を作成し、新しい場所を定義します。このコマンドは、3Dパターンの作成に使用することができます。

複製コマンド  は、ホームタブ → パターングループ → パターンリストにあります。操作により、編集可能なパターンフィーチャが作成されます。

仮想頂点への穴の配置

穴を配置するときに、仮想頂点に配置できるようになりました。端点モードE (1)のときは、Jを押して交点モード(2)に切替えます。



[テーブルでパターン]コマンドの機能強化

- ・ **テーブルでパターン**コマンドで埋込みExcelスプレッドシートを使用できるようになりました。**要素テーブル**ダイアログボックスの**リンク**オプションは、パターンを制御するためにリンクされたExcelスプレッドシートまたは**埋込み**Excelスプレッドシートを使用するかどうかを制御します。

Excelスプレッドシートを参照した後に、**リンク**ボックスのチェックを解除して、選択したスプレッドシートをファイルに埋込みます。

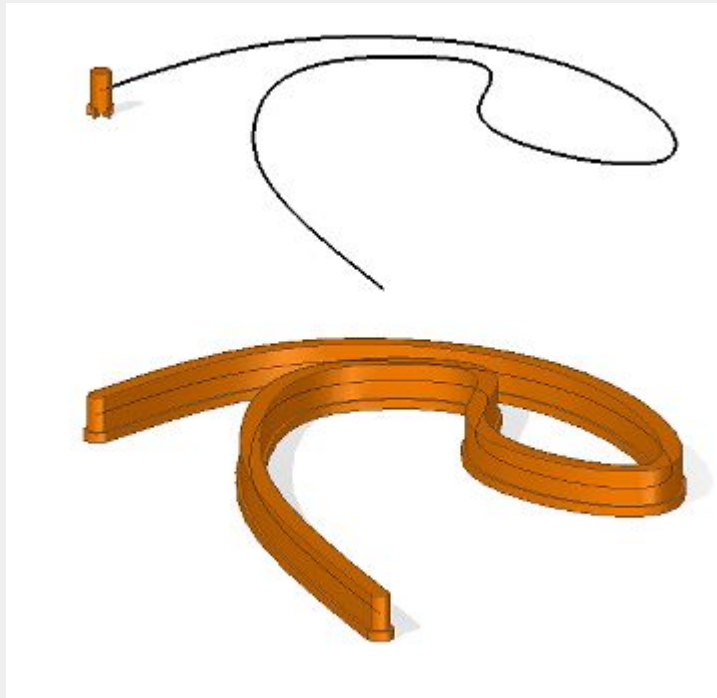
- ・ パターン座標系の原点以外のキーポイントから定義できるように、「**From**」点(**パターン基準点**)を別のオプションのステップで定義することができます。
- ・ **要素テーブル**ダイアログボックスで、「**To**」点(**親基準点**)を持つモデルのキーポイントを使用してプリサイズ点を定義することができます。
- ・ シンクロナス**パターン**コマンドと同様に、親要素ハンドルがマークされます。

ソリッドスイープフィーチャ

ドリルビットの歯またはバレルカムのウェルの作成などの工作機械操作の場合、工作されるパーツの写実的な面を正確に表現するには、通常の切り抜きフィーチャでは十分ではありません。次の新しいコマンドを使用して、これらのソリッドスイープ突き出しフィーチャおよびソリッドスイープで切り抜きフィーチャをモデリングすることができるようになりました。

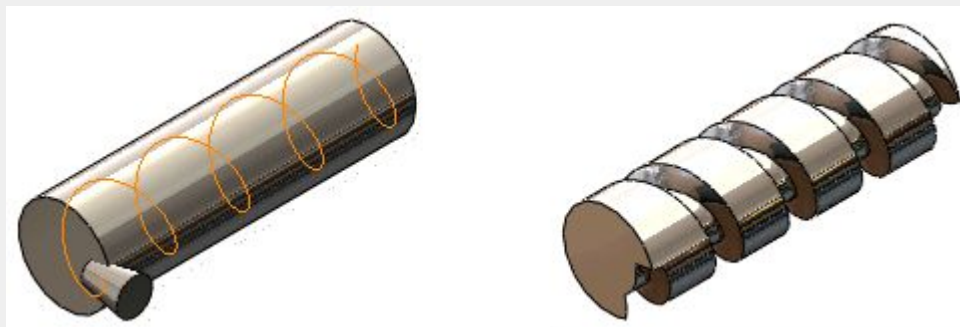
- ホームタブ → ソリッドグループ → 追加リスト → ソリッドスイープ突き出し 。

例



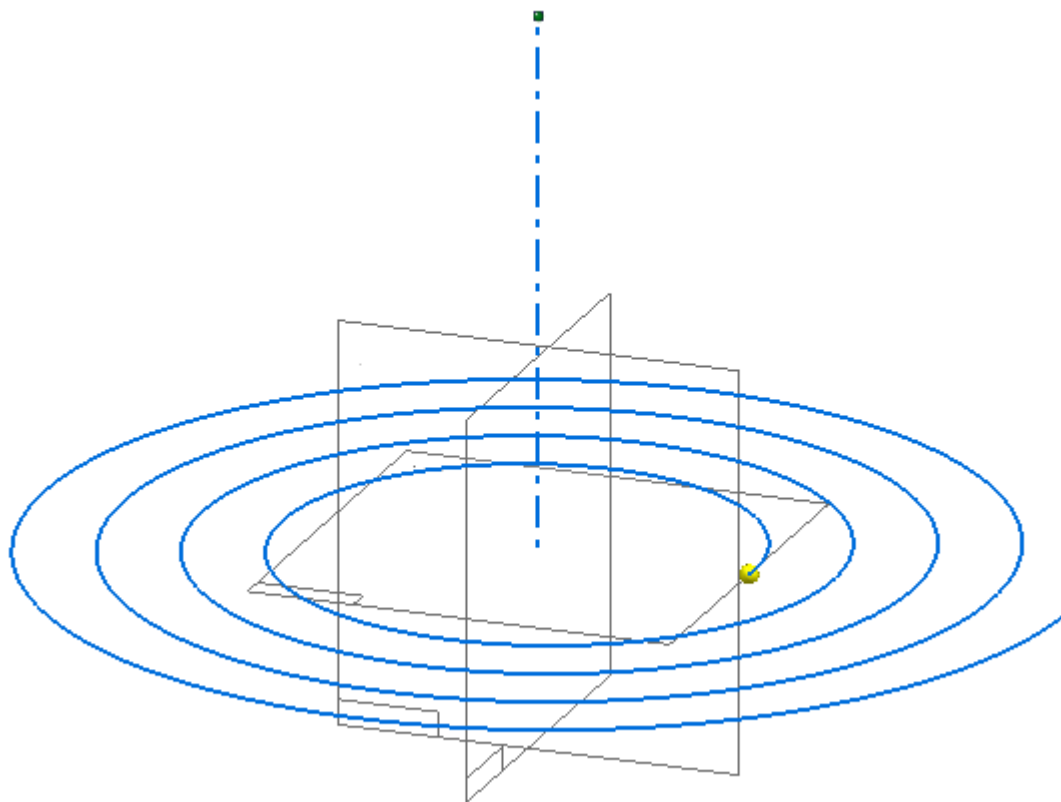
- ホームタブ → ソリッドグループ → 切り取りリスト → ソリッドスイープの切り抜き 。

例



渦巻き曲線

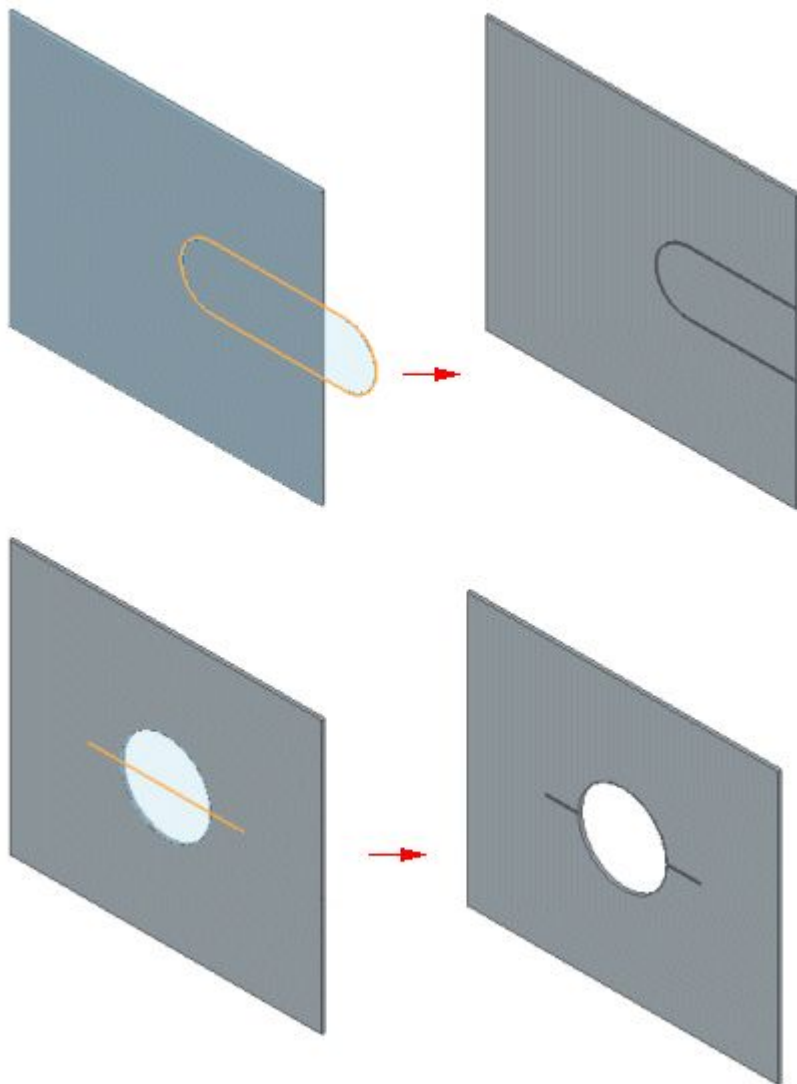
らせん状の曲線コマンド、および新しい渦巻きオプションらせん状の曲線パラメータダイアログボックスで2次元渦巻き曲線を作成することができます。



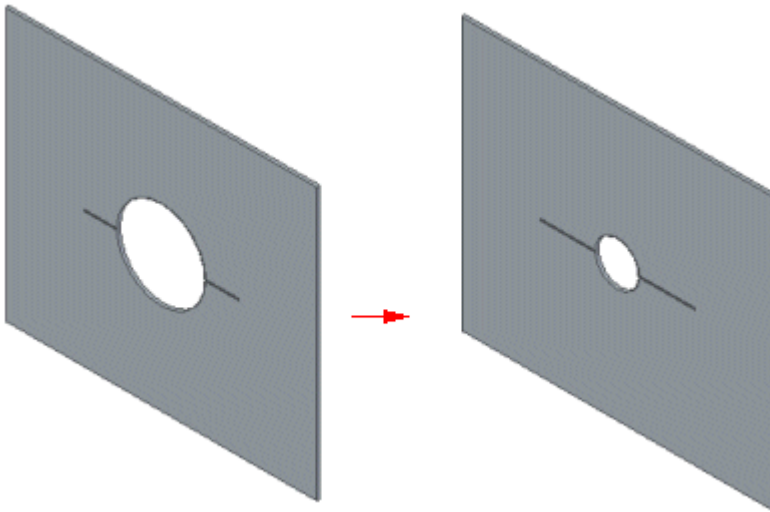
第 4 章 シートメタルにおける機能強化

エッチングコマンドの機能強化

- ・ エッチングコマンドは、タブの境界を越えたオブジェクトの選択をサポートようになりました。タブの境界と交差するオブジェクトを選択した場合、エッチングはタブの境界までのみ延長します。



境界を編集した場合、エッチングは自動的に変更を調整します。



- ・ シートメタルファイルをdxf形式にエクスポートするときに、**展開DXFとして保存のオプション**ダイアログボックスで次の新しいオプションが使用可能です。

- エッチングフィーチャの線種
- エッチングの色

スケッチ幾何形状としてエッチングフィーチャをエクスポートするときに線種と色のマッピングを定義する2つのパラメータがsesmf.iniファイルに追加されました。

- 100=UseEtchFeatureLineTypeは、線種を定義します。
- 8=Use Etch Feature Colorは、線分の色を定義します。

注記

この新しい機能を旧式のSolid Edgeファイルに含めるには、これらの値をsesmf.iniファイルに追加する必要があります。

- ・ スティックフォントがSolid Edgeフォントに含まれるようになりました。

材質テーブルの機能強化

材質テーブルの有用性がさらに強化されました。

材質テーブルダイアログボックスの変更箇所は次のとおりです。

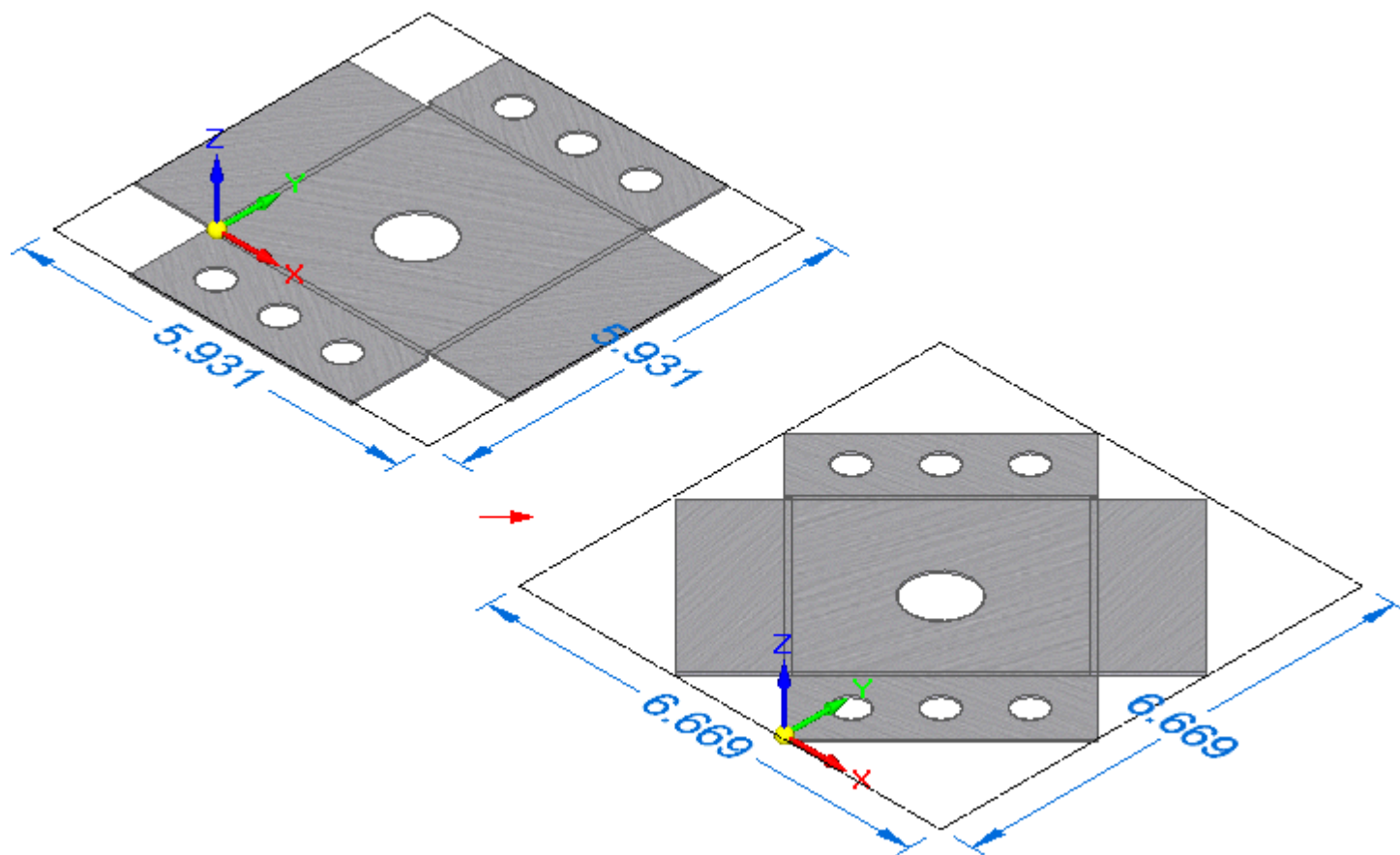
- ・ プロパティが最新でない材質は、ハイライトされます。新しいコマンド、**材質のプロパティを更新**  では、現在のパーツやシートメタルの材質定義を更新することができます。
- ・ ダイアログボックスのハンドルのサイズ変更。
- ・ 昇順または降順の材質名による材質ツリーの並べ替え。
- ・ 材質ツリーのアイテムを、材質グループ、材質ライブラリ、または材質名別のリストで表示。
- ・ 材質プロパティまたはゲージプロパティを変更すると、物理特性は自動的に更新。
- ・ 面スタイルおよび塗りつぶしスタイルの画像プレビュー。新しい面のスタイルや塗りつぶしスタイルを作成することができる[スタイル]ダイアログボックスへの直接アクセス。

材質テーブルダイアログボックス外部の機能強化は次のとおりです。

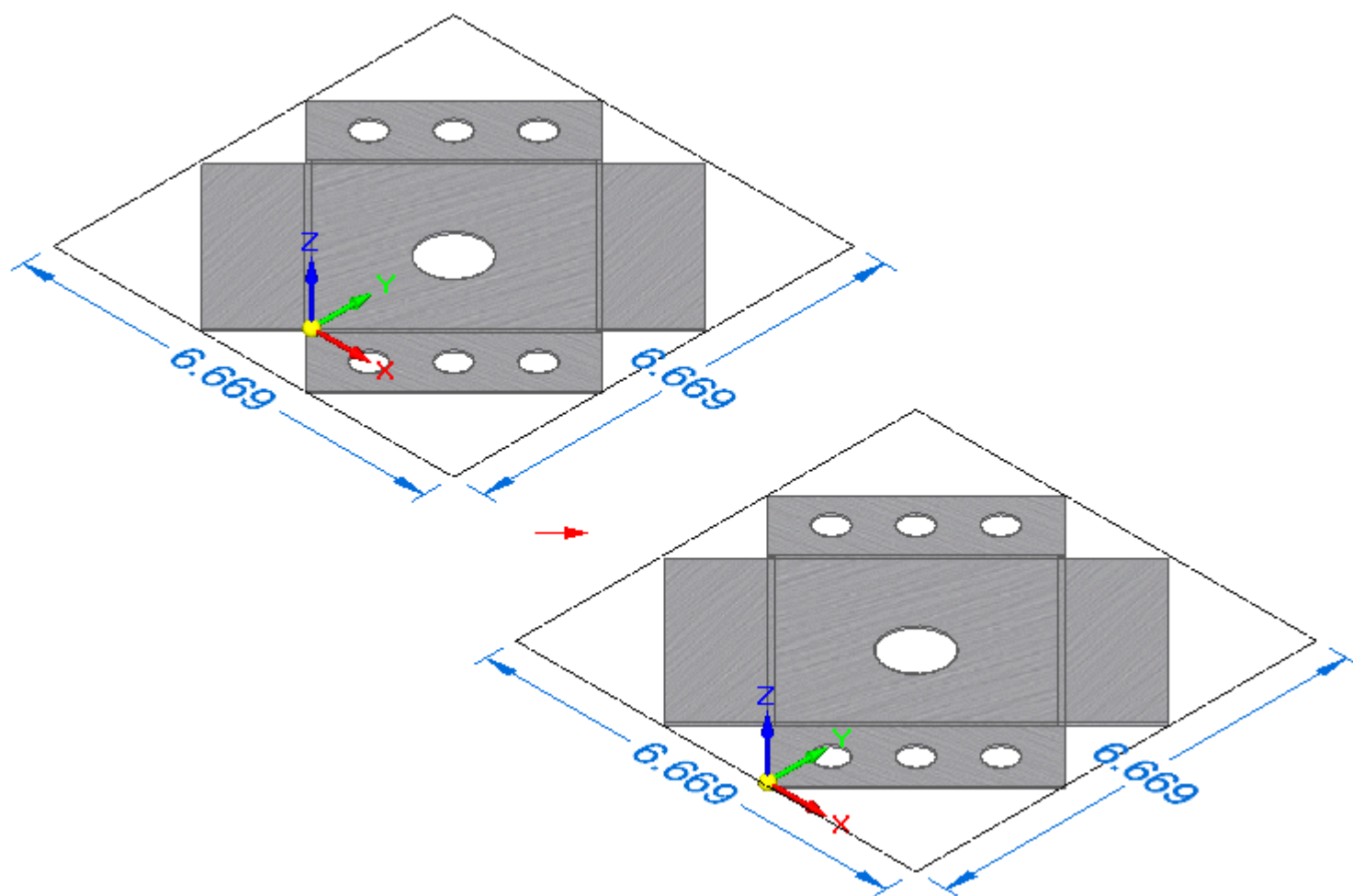
- ・ **全般タブ (Solid Edge オプションダイアログボックス)**の新しいオプションでは、パーツ文書を開いたときに、最新でない材質やゲージをチェックするかどうかを指定します。
- ・ **パスファインダの材質テーブルショートカットメニュー**では、新しいコマンド**最新でない材質をチェック**  を利用することができます。この機能は、アセンブリの**物理特性マネージャ**ダイアログボックスでは、ボタンとしても利用することができます。
- ・ **パスファインダ**では、最新でないステータスのインジケータが材質名の前に指定されます。
- ・ モデルに使用する材質は、変数テーブルに自動的に追加されます。そのため、これらの材質は、**ファイルのプロパティ**ダイアログボックスではカスタムプロパティとして、またドラフト環境では公開された変数プロパティとして参照することができます。
- ・ 材質をコピーして貼り付けるとき、重複した名前を抽出します。材質を置換えてコピー、コピーしない、または名前を変更してコピー、というオプションがあるダイアログボックスもあります。

展開パターンで利用可能になった[移動]および[回転]コマンド

展開環境では、面を回転および面を移動コマンドが有効になります。これらのコマンドの使用による向きの変更



または展開パターンの位置。



注記

コマンドは、**ボディ**選択タイプのみをサポートします。

展開パターンでの不一致を示す現在のパスファインダ

現在のパスファインダには、シートメタルタブ間の不一致が含まれる展開パターンの展開フィーチャの横にすべて矢印が表示されます。



パスファインダのインジケータ以外に、警告メッセージにより展開フィーチャに重なっているタブが含まれていることが示されます。

注記

この警告は、展開フィーチャがST9で再計算されるときに旧バージョンのファイルで表示されます。

ブロック

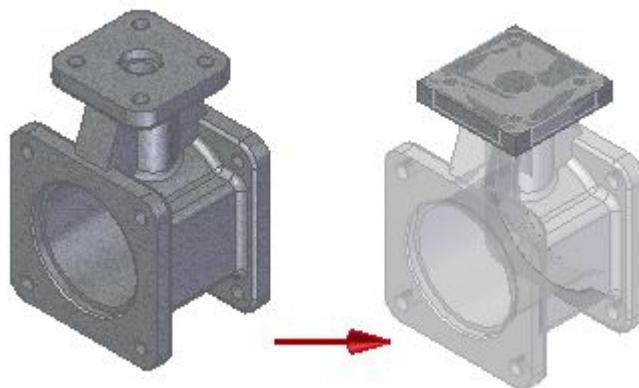
- ・ ブロックは以下の環境で使えるようになりました。
 - オーダードパーツ
 - オーダードシートメタル
 - アセンブリレイアウト

共通のフィーチャのプロファイルを再描画ではなく、ブロックとして追加することができます。各環境は、ブロックライブラリにアクセスすることができます。

- ・ これらの環境では、**開く**および**ブロックを編集**コマンドは使用することはできません。この問題を回避するには、**ブロックを解除**を使用して編集してから、ブロックを再作成します。

[エンクロージャ]コマンドは、パーツおよびシートメタルで使用可能になりました

エンクロージャコマンドがパーツおよびシートメタル環境で使用可能になり、選択したパーツ幾何形状の周囲でボックスまたは円筒を作成できるようになりました。

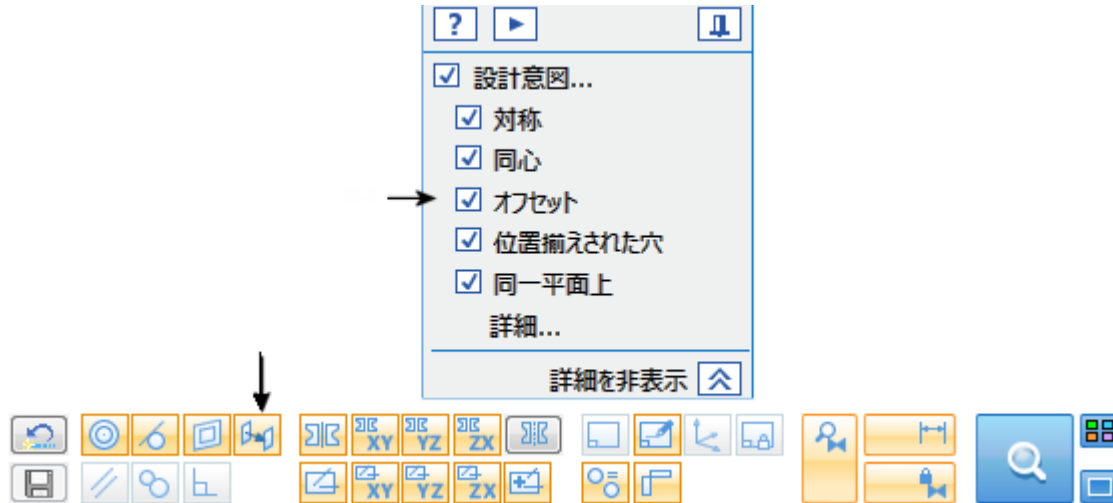


新しいエンクロージャは、それぞれ新しいボディをモデルに追加します。

新しい設計意図の幾何関係(オフセット面を維持)

オフセット面を維持(I)という新しい設計意図幾何関係が使用可能です。

Solid Edgeは、リブ、複合ウェブ、側壁などのフィーチャを検出できるようになりました。設計意図を維持します。この新しいオプションは、パーツに組み込まれた設計意図を維持するのを支援するために使用されます。



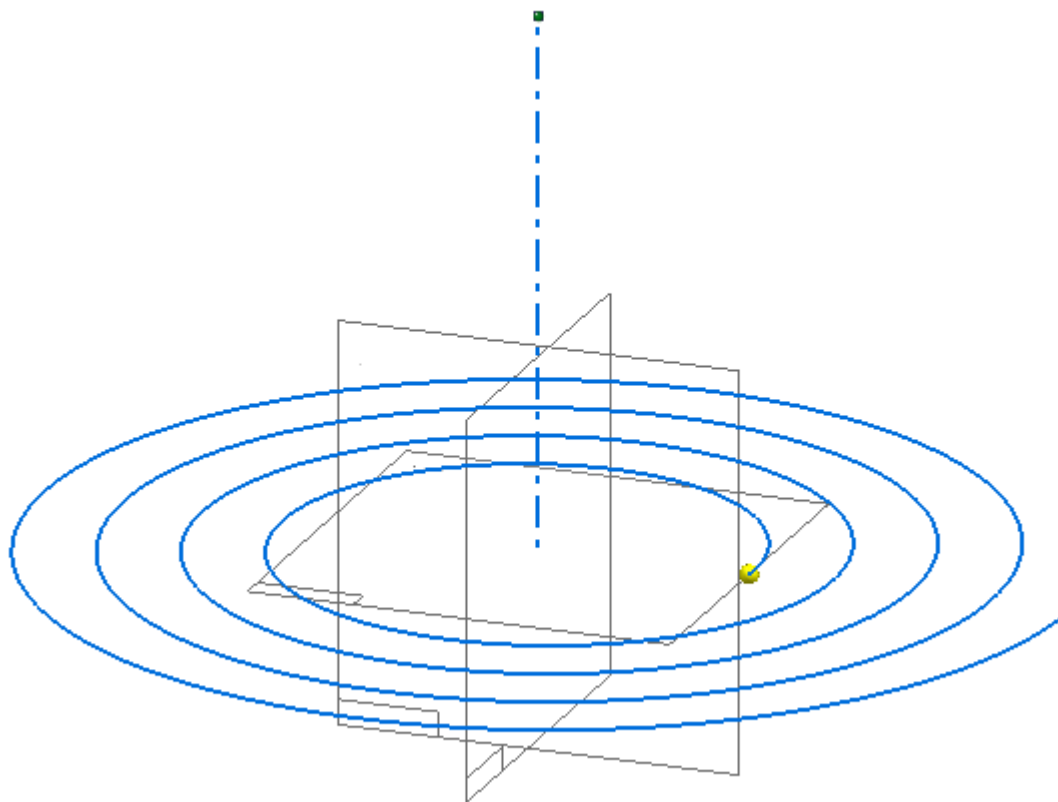
複製コマンド

新しい複製コマンドをパーツおよびシートメタル環境で使用して、ブロックおよび座標系を使用する複製の幾何形状を作成し、新しい場所を定義します。このコマンドは、3Dパターンの作成に使用することができます。

複製コマンド  は、ホームタブ → パターングループ → パターンリストにあります。操作により、編集可能なパターンフィーチャが作成されます。

渦巻き曲線

らせん状の曲線コマンド、および新しい渦巻きオプションらせん状の曲線パラメータダイアログボックスで 2次元渦巻き曲線を作成することができます。



第 5 章 アセンブリにおける機能強化

ブロック

- ・ ブロックは以下の環境で使えるようになりました。
 - オーダードパーツ
 - オーダードシートメタル
 - アセンブリレイアウト

共通のフィーチャのプロファイルを再描画ではなく、ブロックとして追加することができます。各環境は、ブロックライブラリにアクセスすることができます。

- ・ これらの環境では、**開く**および**ブロックを編集**コマンドは使用することはできません。この問題を回避するには、**ブロックを解除**を使用して編集してから、ブロックを再作成します。

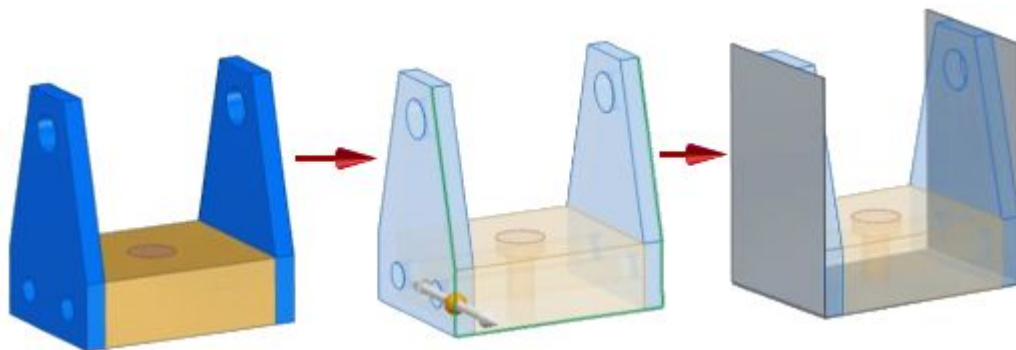
アセンブリの幾何関係マネージャ

アセンブリ幾何関係マネージャのショートカットコマンドには、アセンブリの幾何関係のテーブルが表示され、幾何関係を変更する方法が用意されています。要素を選択した状態でコマンドを開始すると、これらの要素に関連付けられた幾何関係が表示されます。要素が選択されていない場合、コマンドによりアセンブリのすべての幾何関係が表示されます。幾何関係が解析され表示されます。幾何関係を抑制、削除または編集することにより、不正および失敗した幾何関係を検索して修復することができます。

[コンタフランジ]コマンドがアセンブリで使用可能になりました

アセンブリの幾何形状を使用して、**コンタフランジ**コマンドでシンクロナスシートメタルのモデルを作成できるようになりました。これにより、スケッチを作図せずに異なる角度の面を一致させることができます。このコマンドは、シートメタルボディにおける最初のフィーチャ(ベースフィーチャ)である場合のみ使用することができます。

アセンブリのコンテキストにシートメタルのボディを作成するには、最初に**インプレースで作成**コマンドを選択して、空のシンクロナスシートメタルファイルを作成します。次に、**コンタフランジ**コマンドを選択して、アセンブリオカレンスからのエッジのチェーンを検索して選択し、コンタフランジを作成することができます。



アセンブリ環境では、**コンタフランジ**コマンドは、**ホームタブ** → **シートメタルグループ**にあります。

要素のプロパティの機能強化

アセンブリの要素のプロパティには、以下の機能強化が行われました。

- ・ 2つの新しいショートカットコマンド – **オーバーライドを追加**および**オーバーライドを除去** – では上位レベルのアセンブリのコンテキストの要素のプロパティ値をオーバーライドすることができます。従って、レポートとドラフトのパーツリストで、およびその他のサブアセンブリ内の配置に対して、アセンブリの表示を構成することができます。これらの値のオーバーライドは、変更を加えたアセンブリ内に保存され、表示されます。これらの値のオーバーライドが下位のレベルの文書を変更することはありません。

以前のバージョンでは、上位レベルのアセンブリで、読み取り専用のサブアセンブリ内の要素のプロパティを編集することはできませんでした。

- ・ **要素のプロパティ**ダイアログボックスでは、新しいセルの色分けスキームによって個々のセルのオーバーライドの状態が示されます。
- ・ 要素のプロパティの**列を書式設定**ダイアログボックスでは、新しいオプションの**列設定の保存**が使用できます。このボックスに保存した設定の名前を入力すると、他のアセンブリで再使用するために列の順番と表示変更を保存することができます。**保存**ボタンを選択すると、設定がSolid Edge Preferencesフォルダの新しいテキストファイル**OccurrencePropertyColumns.xml**に書込まれます。
- ・ 独自のユーザー定義プロパティを定義して、パーツ、サブアセンブリ、アセンブリのユーザー設定プロパティの各要素に任意の値を割当てることができます。

詳細については、新機能のコンパニオントピックの**アセンブリ内のユーザー設定要素のプロパティ**を参照してください。

アセンブリ内のユーザー設定要素プロパティ

要素のプロパティダイアログボックス内の新しいユーザー設定要素プロパティを追加ボタンを使用して、アセンブリで使用しているモデルにユーザー設定要素プロパティを追加できるようになりました。ユーザー設定要素プロパティを使用すると、アセンブリ内でパーツまたはサブアセンブリを使用するたびに、固有のメタデータをそのパーツまたはサブアセンブリに割当てることができます。(上位レベルの情報を提供するシステム要素のプロパティは、参照するプロパティの各要素に同じ値のみ表示できます)。

ユーザー設定要素プロパティであるBOM ID、基準ID、保守、および注釈は、Solid Edge ST9 Preferences ユーザー設定フォルダにデリバリされた新しい**CustomOccurrenceProperty.xml**ファイルに例として定義されます。このファイルを編集して、これらのユーザー設定要素プロパティに選択可能な値のリストを提供したり、独自のプロパティを追加したりすることができます。



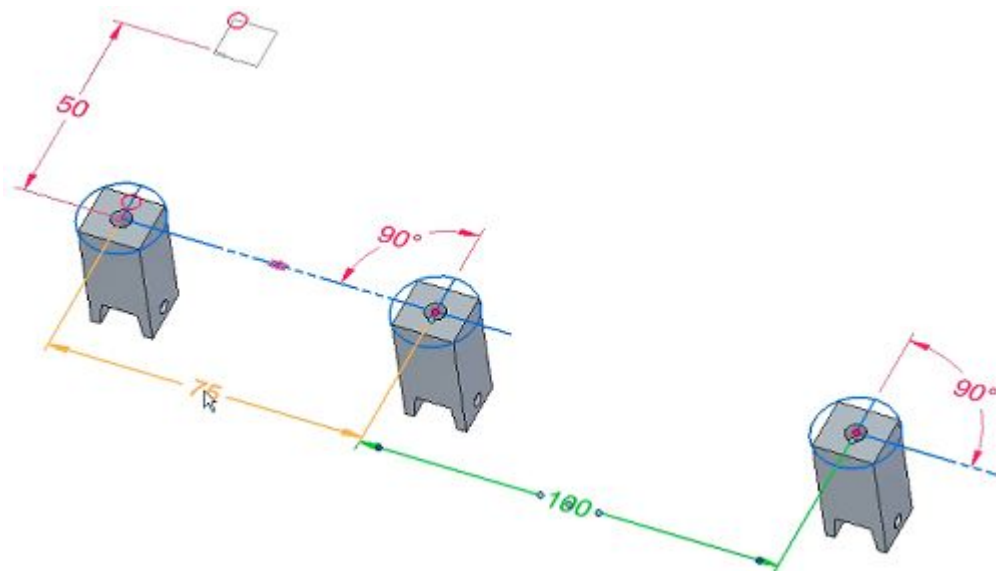
また、ユーザー設定要素プロパティは、パーツリストを作成して図面ビューに注釈を付けるためにドラフト環境で使用することも可能です。

[構成要素を複製]コマンドの機能強化

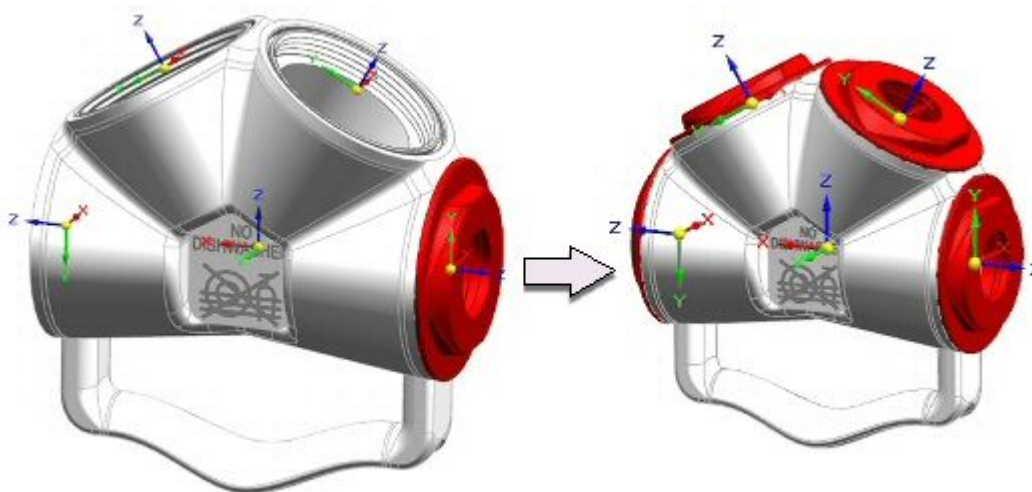
構成要素を複製コマンドを使用して、既存の座標系またはブロックを、アセンブリスケッチに配置して、構成要素の位置と向きを指定できるようになりました。

選択元および**選択先**のステップを使用して、次の操作を実行することができます。

- ・ 構成要素の向きを合わせるアセンブリまたはサブアセンブリスケッチのブロックを選択する。



- ・ 構成要素の座標系を合わせる既存の座標系を選択する。

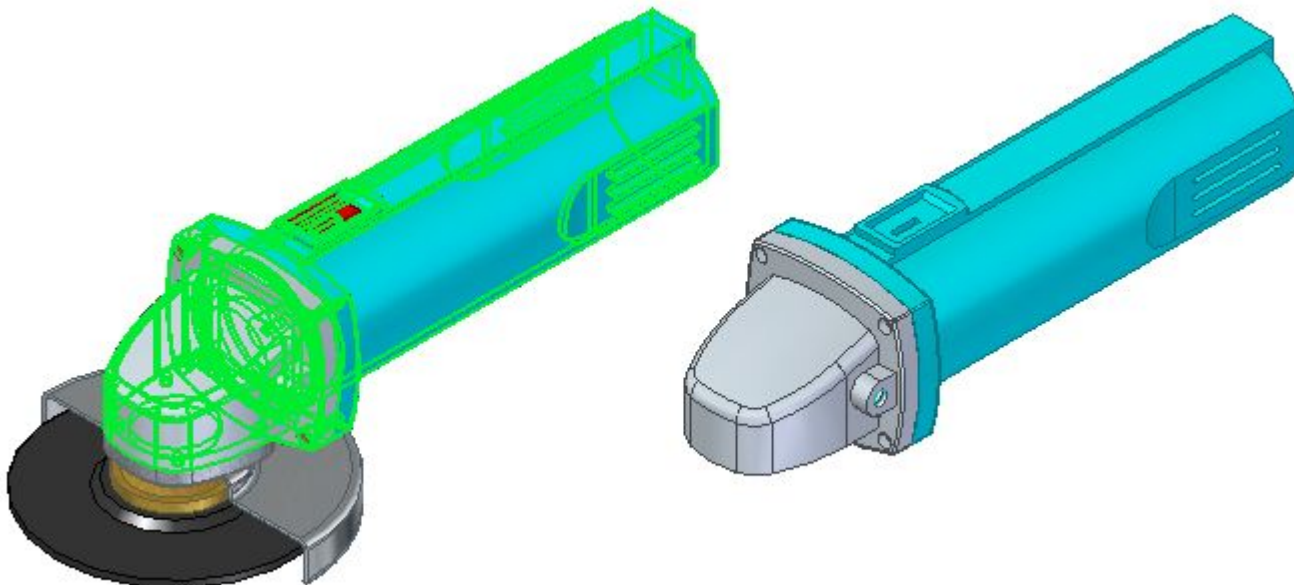


電気コネクタの移動の機能強化

BlueDotを作成するケーブルまたはバンドル内にワイヤを含む電気コネクタを移動できるようになりました。コネクタを移動するときに、ワイヤは、ケーブルまたはバンドルと共に、コネクタを基準にして幾何形状を維持します。

[分離]コマンド

選択ショートカットメニューの**分離**コマンドを使用して、選択したパーツのみを表示します。

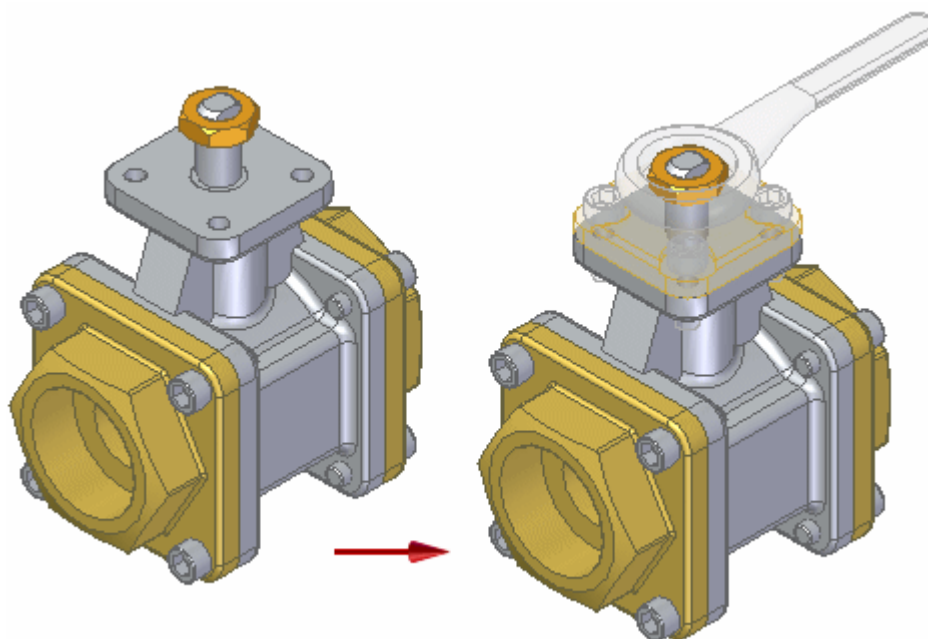


グラフィックウィンドウで、**分離を復元**ボタン(1)をクリックして分離前のビューに戻るか、**分離を閉じる**ボタン(2)をクリックして分離ビューのままにします。



[表示を切り替え]コマンド

ステータスバーの**表示を切り替え**ボタンを使用して、すべての構成要素の表示状態を切り替えます。隠線の構成要素は透明表示されますが、容易に選択できるように外形線が表示されます。これは[パスファインダ]を使用せずに非表示パーツを表示するのに便利です。



詳細情報は、アセンブリの構成要素の表示状態の切り替えを参照してください。

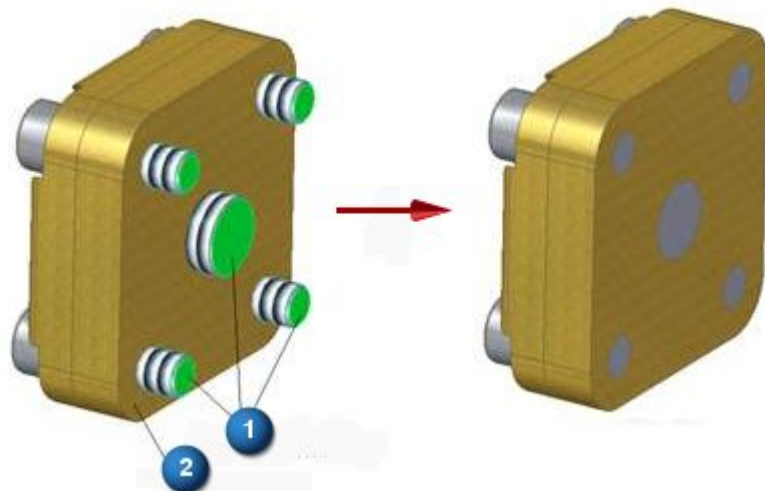
パイピングの強化

XpresRouteパイピングアプリケーションに加えられた機能強化を以下に示します。

- ・ **パイピングのオプション**ダイアログボックスのリストに新しい**保存設定値**オプションは、パイプのサイズは、標準、公差域クラス寸法、および端処理方法などの、保存されたパイプ設定値を表示します。保存設定値はリストから選択して呼び出せます。このダイアログボックスの設定値は、選択したパイプの特性を示しています。
- ・ 新しい**優先されるクラスフィッティングを選択**オプションは、Standard Partsライブラリの使用可能なフィッティングから優先フィッティングを選択することができるように、**Standard Parts**ダイアログボックスを表示します。複数のフィッティングが利用可能な場合、それらのフィッティングが一覧に表示されるので、必要なフィッティングを選択することができます。
- ・ **コンパニオン**オプションに対して幾つかの機能強化が行われました。
 - フランジ付きフィッティングを配置するとき、またはフランジなしフィッティングをStandard Partsライブラリのフランジ付きフィッティングに置換えるとき、**コンパニオンフランジ**ダイアログボックスが表示されます。これにより、配置するコンパニオンフランジを選択することができます。
 - フランジ付きフィッティングをフランジなしフィッティングに置換えると、そのフランジ付きフィッティングに関連付けられているコンパニオンフランジは自動的に除去されます。
 - コンパニオンフランジを配置した後、フランジを選択して、それを別のコンパニオンフランジに置換えることができます。
 - **パイピング**コマンドバーの**向き**オプションを使用して、コンパニオンフランジを回転させることができますようになりました。
- ・ Standard Partsのパイピングパーツの新しい**WT** (肉厚)パラメータは、選択したパイプサイズのフィッティングのより正確なリストを提供します。

アセンブリ内で使用可能な[面を置換]コマンド

シンクロナス **面を置換** コマンド  がアセンブリ内で使用できるようになりました。以下の例では、このコマンドを使用して、ボルトがパーツを越えて延長する面を置換することができます。最初に、ボルト面のすべての要素を選択してから(1)、置換先である単一の面を選択します(2)。



アセンブリ環境では、**面を置換** コマンドは **フィーチャタブ** → **変更グループ** にあります。それを使用するために、インプレースアクティブ化される必要はありません。

Standard Partsにおける機能強化

Standard Partsにいくつかの機能強化が行われています。

- ・ **標準パーツのインストールガイド**は、DVD上の**Standard Parts setup**フォルダにインストールする前に使用できるようになりました。
- ・ パイピングおよび機械ライブラリをインストールする際、**カスタムセットアップ**のステップで、デフォルトのインストール場所は最後に使用したインストール場所です。
- ・ パイプおよび機械ライブラリのインストール中に、データベースにライブラリにあるパーツを自動的に追加するオプションがあります。
- ・ **カスタムセットアップ**のステップでは、すべてのフィーチャとサブ機能の選択を解除するオプションを使用できるようになりました。
- ・ **カスタムセットアップ**ステップで、ANSIやDINなどのデフォルトの規格の選択は、Standard Parts Administrator、Machineryライブラリ、およびPipingライブラリがインストールされるマシンのロケールによって異なります。
- ・ 例えばST9などの新しい標準部品のインストール時に、既に既存の標準部品がマシンまたはサーバー上に存在していると、**カスタムセットアップ**ステップで、**この機能を使用することはできません**オプションがオンになります。

既存の標準部品構成がレジストリに定義されている場合は、デフォルトで、**この機能を使用することはできません**がオンになります。

- ・ Standard Parts Administratorの**カスタムセットアップ**ステップ時に、パイプまたは機械ライブラリをインストールするときと同様に、規格を選択することができます。
- ・ ST9以降は、Solid EdgeはStandard Parts用のデータベースとしてMicrosoft Accessをサポートしなくなりました。Solid Edgeは、Standard Partsのインストールによって、SQL Express 2012を提供するようになりました。
- ・ 8つの一連の新しいビデオでは、Standard Partsを使用する方法を説明します。

注記

動画と対話式シミュレーションについて、ST9で新しく用意されものや最近更新されたもののリストは、ヘルプトピックのSolid Edge動画を参照してください。

アセンブリ内で使用可能な[差]コマンド

アセンブリでは、シンクロナス **差**コマンド  を **穴を認識**オプションと共に使用して、パーツファイルで穴を認識できるようになりました。例えば、パーツファイルで**差**コマンドを使用して作成したシリンダ切り抜き、およびパーツファイルで**穴**コマンドを使用して作成されているねじ穴およびクリアランス穴を使用して、対応する穴をアセンブリ内の別のパーツに作成できるようになりました。

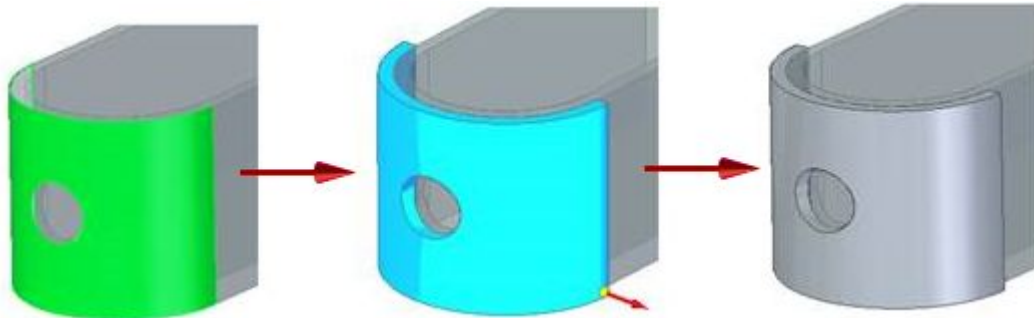


アセンブリ内で使用可能な[厚みづけ]コマンド

厚みづけコマンド  を使用して、アセンブリ内の隣接パーツの面から新しいパーツを作成できるようになりました。

アセンブリのコンテキストで、最初に**インプレースで作成コマンド**  を選択して空白のパートファイルを作成します。次に、**ホームタブ → ソリッドグループ → 追加リスト → 厚みづけコマンド**を選択して、以下の内容を実行することができます。

- ・ 要素から面を見つけて選択します。
- ・ 面から選択した内部面ループを包含、除外、または厚みづけします。
- ・ **アセンブリのパスファインダ**で厚みづけされた面から新しいパーツを作成します。



[変数]における機能強化

変数の有用性がさらに強化されました。変数テーブルダイアログボックスの変更箇所は次のとおりです。

- ・ 新しい**構造ビュー**  オプション - その親フィーチャの下に変数をリストします。構造列にツリーが表示されます。
- ・ 新しい**リストビュー**  オプション - 既存のビューと似ているフラットリストを表示します。構造列には、変数がアタッチされているフィーチャをリストします。
- ・ 新しい並べ替えオプションには、昇順、降順、ユーザー設定並べ替え、および種類順と親順による複数レベルの構造化された並べ替えが含まれます。
- ・ ASIN、ACOS、ATAN、SINH、COSH、TANH、PI()、E()、PHI()、RADIAN()、DEGREE()など、**数学/三角**カテゴリでの新しい関数。
- ・ **公開列と公開変数列**を使用して公開のために選択した変数が、ダウンストリームで使用可能になりました。これにより、それらの実数値をプロパティテキストで参照できるようになります。詳細情報は、プロパティテキストでの公開変数の使用を参照してください。

第 6 章 スケッチにおける機能強化

[作図補助要素として作成]コマンド

作図補助要素として作成と呼ばれる新しいコマンドが**作図**グループにあります。このコマンドでは、プロファイルから作図補助要素にスケッチ作成モードを変更します。ボタンがオンのときは、作図補助要素モードになります。ボタンがオフのときは、プロファイルモードになります。

[作図補助要素]コマンドバー

作図補助要素コマンドは、選択のオプション、つまり**単一**および**連結**を提供するコマンドバーを持つようになりました。以前は**単一**のオプションおよび枠の選択のみが使用可能でした。新しい**連結**オプションでは、スケッチ要素の接続済み連結を選択して、作図補助要素とプロファイルの間を変更します。

3D 点コマンド

3D 点コマンドは、[3D スケッチ] タブに追加されました。

3D 点を配置するには、以下の内容を実行します。

- ・ 3D 空間でクリックする。
- ・ 幾何キーポイントを選択する。
- ・ コマンドバーで XYZ 座標を入力する。座標は、選択した座標系を基準にしています。
- ・ 座標系の平面にロックし、コマンドバーで平面の座標値を入力する。座標は、選択した座標系を基準にしています。

スティックフォント

スティックフォントがSolid Edgeフォントとともに装備されるようになりました。これらのフォントには、シートメタル上のテキストエッチングのための、最適なソリューションが用意されています。

2つの新しいオプションではスティックフォントをサポートしています。

- ・ **テキストプロファイルコマンドを選択したとき、スティックフォントのみをリストに表示ではテキストダイアログボックスで使用可能なフォントを表示します。**
- ・ **幾何形状としてエッチングテキストをエクスポートは、シートメタルパーツを展開DXFとして保存のオプションダイアログボックスで、展開パターンとして保存するときに、エッチングフィーチャを作成します。**

新しいオーダードスケッチ表示オプション

一部のモデリングシナリオでは、スケッチ要素数、色、スタイル、および注釈がかなり重要になる可能性があります。デザインでブロックを使用するとき、これが当てはまるかもしれません。これらのスケッチの表示を制御する方法が必要なことがあります。

オーダード環境では、**スケッチショートカットメニュー**にある以下の新規オプションを使用して、スケッチの表示を制御することができます。

- ・ **単色スケッチ表示**
- ・ **複色スケッチ表示**
- ・ **高速スケッチ表示**
- ・ **注釈を表示(シンクロナス環境でも使用可能)**

注釈を表示コマンド

注釈を表示コマンドは、**パスファインダ**で選択したスケッチのショートカットメニューにあります。この設定によって、スケッチに含まれている引出テキストボックスおよびブロックのラベルなどの注釈の表示をオンまたはオフに切替えます。オーダード環境では、注釈はスケッチモードで表示されます。

注記

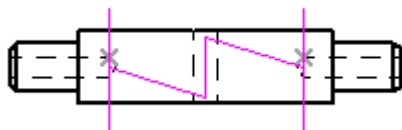
高速スケッチ表示が有効になっている場合、**注釈を表示**が有効になっても、注釈は表示されません。

第 7 章 ドラフトにおける機能強化

省略ビューの関連性省略線

省略線を図面ビュー幾何形状に関連付けることができるようになりました。これにより、図面ビューに表現されたモデルが変更されると、図面ビューの省略部分もそれに伴い変更されます。

省略ビューを作成または変更するとき、図面ビューの幾何形状上のキーポイントを選択することで、省略線を拘束することができます。



図面ビューの向きの変更

図面ビューを作成した後に、図面ビューの向きを変更できるようになりました。主投影ビューのビューの向きを変更するとき、そのビューに位置揃えされているすべての隣接する正投影図面ビューは、その向きを変更すると反応します。

以前は、向きを変更するために、図面ビューを削除してから再生成する必要がありました。

図面ビューを選択するとき、コマンドバー上で以下のオプションを使用できるようになりました。

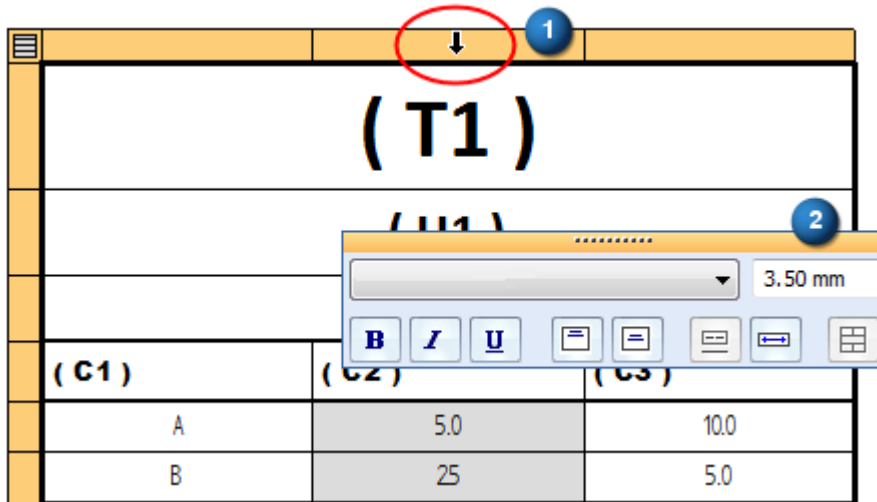
・ **ビューの向き** 

・ **図面ビューのレイアウト** 

これらのオプションは、派生ビュー、PMIモデルビュー、構成を適用されたビュー、および2Dビューでは使用できません。

ダイレクト編集でのテーブルセルのフォントサイズの変更

テーブルをダブルクリックするときに表示されるオレンジ色の編集フレームを使用して、テーブルデータのフォントサイズを変更できるようになりました。1つ以上の列のデータのフォントサイズまたはテーブル内のすべてのデータセルのデータのフォントサイズを変更することができます。



以前は、ダイレクト編集を使用して、タイトル行のテキストのフォントサイズのみ変更することができました。

複数の図面ビューのプロパティを同時に変更する

図面ビューのプロパティダイアログボックスを使用して、複数の図面ビューのプロパティを同時に変更することができます。ダイアログボックスで **適用** ボタンを選択すると、変更が選択したすべての図面ビューに適用されます。

プロパティ コマンドを選択する前に選択した図面ビューは、表示されるタブのほか、変更を行うために使用できるそれらのタブのオプションを決定します。

以前は、複数の図面ビューを選択した場合、**全般** タブのみが表示されました。

すべてのパーツリスト内のすべての要素を数える

要素のプロパティダイアログボックスで、サブアセンブリに対する[数量]要素のプロパティにユーザー定義の値を割当てると、数量のオーバーライドが、トップレベルパーツリストと最小パーツリスト内のすべてのパーツとコンポーネント要素だけでなく、サブアセンブリにも適用されるようになりました。パーツリスト「数量」列では、以下の情報が計算され、表示されます。

- ・ サブアセンブリの合計数量
- ・ パーツの合計数量

トップレベルパーツリストまたは最小パーツリストのいずれかを生成する際に、この計算に対して選択する追加のインターフェイスオプションはありません。

注記

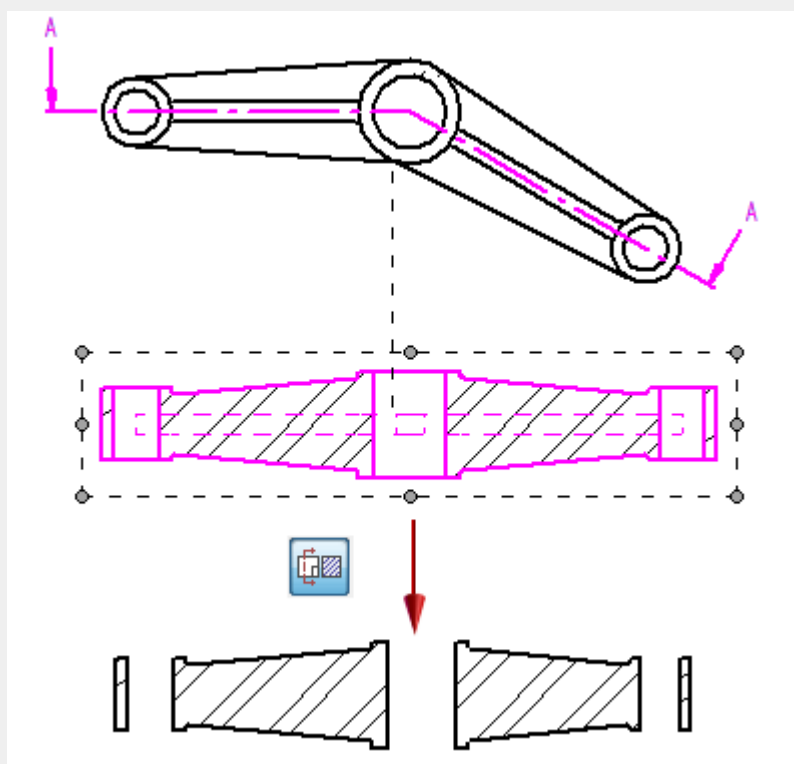
これは、以前分割パーツリストに対してのみ使用可能であった計算方法と同じものです。分割パーツリストの場合、**パーツリストのプロパティ**ダイアログボックスの**パーツリストの調整**タブで、**サブアセンブリの数で乗算**オプションを選択してください。トップレベルパーツリストと最小パーツリストの場合、デフォルトで使用される計算方法です。

断面ビューを編集してそのタイプを変更する

ビューを再作成せずに、断面ビューを選択して別のタイプの断面ビューに変更できるようになりました。

例

- 単純断面ビューを選択して、コマンドバーの**断面のみ**ボタンを使用し、薄い断面(紙のように薄い断面)ビューに変換することができます。



- また、コマンドバーの**回転させた断面ビュー**ボタンを使用して、単純断面ビューを回転させた断面ビューに変換することもできます。

以前は、断面ビューの作成時にのみこれらのボタンを使用することができました。

プロパティテキストによって参照される公開変数

変数テーブルで公開された変数は、**ファイルのプロパティ**ダイアログボックスの**カスタム**タブを介さずに、パーツリスト、テーブル、および注釈のプロパティとして直接使用できるようになりました。

つまり、次のような操作が可能です。

- ・ 公開変数の実際の値を参照します。以前は、公開変数の値は、実数、ドラフト、スケッチ、およびPMIとしてではなく、テキスト文字列としてのみ使用することができました。
- ・ 抽出された値を、[書式の値]ダイアログボックスを使用して書式設定します。例えば、精度、単位なし、二重単位、および許容差を指定することができます。
- ・ **パーツリストのプロパティ**ダイアログボックスおよび**プロパティテキストを選択**ダイアログボックスの**列**タブを使用するプロパティのソースを選択します。

例

同じ名前で一覧表示されているユーザー設定ファイルのプロパティも、それらのソースを示しています。

精度(ユーザ設定プロパティ)

ソース=ユーザー設定タブ、ファイルのプロパティダイアログボックス

精度(公開変数)

ソース=変数テーブル

この機能強化では、新しいプロパティテキストの出力修飾子、/EV(公開変数)が導入されました。この情報は、参照テキストとプロパティテキストの出力を変更する書式コードのテーブルに追加されました。

注記

これらの変更は、以前のプロパティテキストのワークフローには影響しません。引き続き、**ファイルのプロパティ**ダイアログボックスの**ユーザー設定**タブで公開変数を参照することができます。

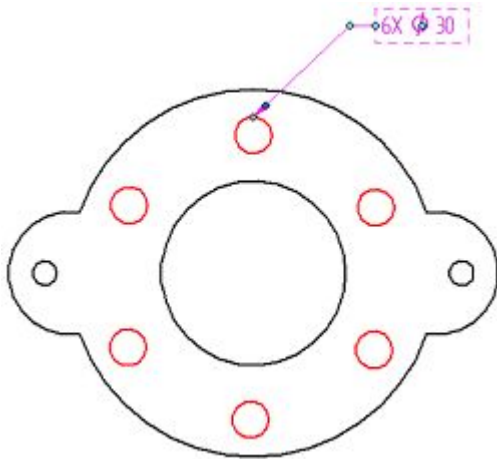
大きな図面の高速更新

非常に大規模なアセンブリの図面ビューの高速更新をサポートするマルチコア処理を、ST9で 사용할 ことができます。マルチコア処理は、新しいオプションである**マルチコア図面ビュー処理を有効にする**を使用して、オンおよびオフにすることができます。このオプションは**Solid Edgeのオプションの全般**タブに配置されています。

穴の数を示す穴表記

穴引出テキストボックス、フィーチャ引出テキストボックス寸法、およびドラフト、スケッチ、PMIの寸法補助記号と共に、穴の個数を表示できるようになりました。有効な穴フィーチャは、シンクロナスモデルとオーダードパーツモデルで穴コマンドを使用して作成された穴フィーチャ、および穴を認識コマンドを使用してインポートされたボディで作成された穴フィーチャです。アセンブリモデルの場合、パーツに配置されたアセンブリ穴フィーチャと共に、パーツ内の穴も数えられます。穴の個数は穴のタイプ、場所、向き、および穴のオプションダイアログボックスで定義されたパラメータによって異なります。

穴表記を選択すると、参照する穴がハイライトされます。



穴の個数は、4つの新しいプロパティテキストコード(%QN、%QC、%QA、および%QP)でサポートされます。詳細情報は、プロパティテキストのコードを参照してください。

- ・ **記号と値を選択**ダイアログボックスを使用して、プロパティテキストコードを選択および挿入することができます。
- ・ **寸法のスタイルを変更**ダイアログボックス、**寸法補助記号**ダイアログボックス、および**引出テキストボックスのプロパティ**ダイアログボックスで、プロパティテキストコードを参照することができます。

注記

従来のドラフトファイルで新しい穴個数コードを使用するには、Ctrl+Shiftキーを押したまま、**ビューを更新**コマンドを使用して、図面ビューの更新を実行する必要があります。

図面を比較するための画像解像度オプション

出力ファイルの画像解像度を制御するため、**図面を比較**ダイアログボックスに新しく**滑らかさ**スライダが追加されました。

初期寸法並列距離

新しいオプションの**初期並列距離**は、[寸法線と累進寸法]タブ([寸法のスタイル]および[寸法のプロパティ])で使用可能で、並列状態の寸法内の最も内側にある寸法と寸法を配置した幾何形状との間に固有の間隔を指定します。このオプションは、自動的に配置される長さ寸法、角度寸法、対称直径寸法、同心直径寸法、およびその他の上下表示寸法に適用されます。

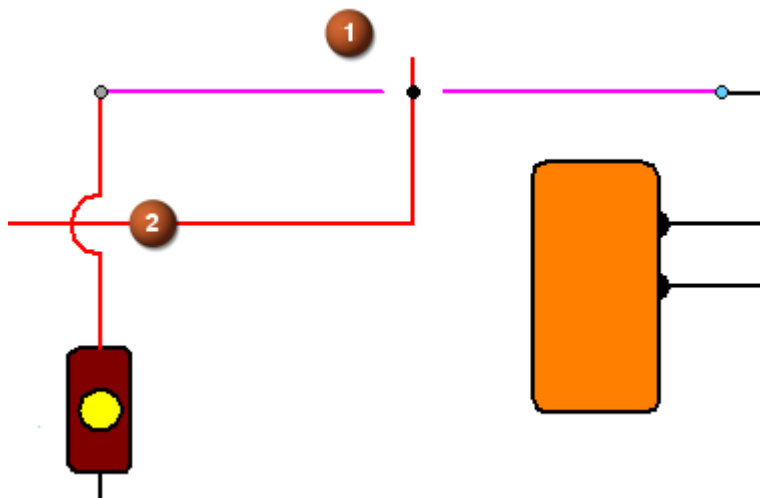
新しいオプションは**並列ピッチ**オプションと共に使用して、**並列状態の寸法内のすべての寸法間の距離**を制御します。

以下に示すコマンドはアクティブな寸法のスタイルから、**並列ピッチ**と**初期並列距離**の値を使用します。

- ・ **寸法を整列**(ドラフトおよびスケッチ)
- ・ **寸法の読み込み**(ドラフト)
- ・ **自動寸法記入**(ドラフトおよびスケッチ)

新しいコネクタの形状タイプ: 間隔

コネクタコマンドを使用するときに、新しいギャップ形状(1)を使用して2つのコネクタの交差を表示できます。以前のバージョンでは、ジャンプ形状(2)しか使用できませんでした。



詳細については、[コネクタ]コマンドバーを参照してください。

挿入するすべての画像ファイルの種類のリスト

画像を挿入コマンドを使用して、ドラフトまたはモデル文書に挿入する画像ファイルを参照するとき 、**ファイルの種類**リストを**すべての画像ファイル(*.bmp、*.png、*.jpg、*.jpeg、*.jpe、*.tif、*.tiff)**に設定します。

これは、見つけようとしている画像のファイルの種類が不明な場合に便利です。

新しいコマンド: 空のレイヤを削除

新しいコマンド**空のレイヤを削除**  は、いずれの幾何形状にも関連付けられていないすべてのレイヤを削除します。このコマンドは、2Dおよび3D環境の**レイヤタブ**で使用可能です。

例

AutoCADファイルをSolid Edgeドラフト文書に移行するときには、オリジナルのファイルにたくさんのレイヤがある傾向があります。**空のレイヤを削除**コマンドを使用して、コンテンツを含んでいないレイヤを削除することができます。

詳細については、1つ以上のレイヤを削除のヘルプトピックを参照してください。

新しいコマンド: 背景を置換



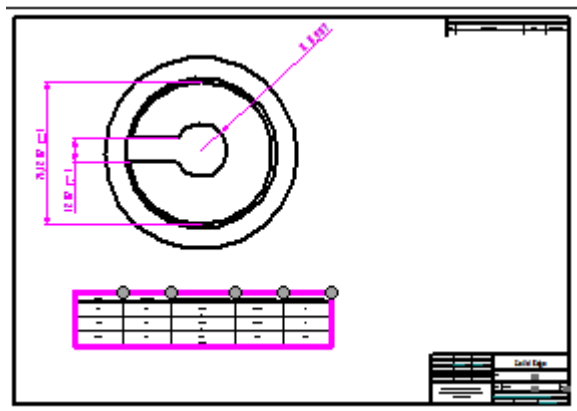
新しい**背景を置換**コマンドを使用して、1つのドラフト文書内の1つ以上の背景シートの内容を、別のドラフト文書にコピーすることができます。このコマンドは、選択した背景シートタブのショートカットメニューで利用することができます。

詳細情報は、[背景を置換]コマンドを参照してください。

新しいコマンド: 公差テーブル

新しいコマンド**公差テーブル** は、アクティブなシート、選択した図面ビュー、または選択セットのはめあい寸法から値および許容差をリストするテーブルを生成します。対象となるはめあい寸法は、寸法の

コマンドバーで、寸法のタイプ=公差域クラス の寸法です。



ホームタブ → テーブルグループ → 公差テーブルコマンドは、2DモデルシートおよびSolid Edge 2D Drafting以外にも、ドラフト環境で使用可能です。

詳細については、公差テーブルのヘルプトピックを参照してください。

複数のビューへの寸法の読み込み

これで、**寸法の読み込み**コマンドを使用して、重複する寸法を生じさせる場合でも、長さ寸法を複数の図面ビューに読み込むことができます。図面ビューを選択する前に、新しいコマンドバーオプションの、

複数のビュー を選択することができます。

このオプションを選択解除すると、長さ寸法はビューごとに1回、ビューが寸法平面に平行なときだけ読み込まれます。

詳細については、[寸法の読み込み]コマンドを参照してください。

親アセンブリからプロパティを読み込む

注記を配置するときに、パーツの **直接の親**であるアセンブリまたはサブアセンブリからプロパティ値を読み込むことができるようになりました。以前は、**最上位アセンブリ**、サブアセンブリ、またはパーツだけから値を読み込むことができました。

現在、[プロパティテキストを選択]ダイアログボックスのソースリストから、新しいオプション**図形接続からアセンブリに**を選択することができます。また、プロパティテキスト文字列内にプロパティテキストコード、|GA、を入力して、出力を変更することができます。

独立したアセンブリの図面ビューを作成するときの短いリスト

ST9で、[参照ファイルを選択]ダイアログボックスから**アセンブリから独立した図面ビューを作成**オプションを選択すると、パーツのリストは簡略化されて、各レベルの固有の各構成要素の1つの要素だけを表示します。大規模なアセンブリでは、これにより、パーツのリストのナビゲートが高速で容易になります。このオプションは、セッション間で保持される基本設定です。

ドラフトでのユーザー設定要素プロパティの表示

要素のプロパティダイアログボックスでアセンブリモデルに追加されるユーザー設定要素プロパティは、パーツリストと引出テキストボックスで使用するために、ドラフト環境で使用することができます。

要素プロパティのアセンブリへの導入では、アセンブリで使用されるパーツモデルの各ブロック要素はプロパティに対して異なる値を指定することができます。これは、ユーザー設定要素プロパティと呼ばれます。以前は、パーツリスト内のパーツモデルのすべての要素には、参照プロパティに対して同じ値が表示されました。

ユーザー設定要素プロパティは次のように使用することができます。

- ・ パーツリストに、単一のセル内のパーツに対する異なる要素プロパティ値を表示するため。
- ・ バルーンと引出テキストボックスに、図面ビュー内のパーツの固有の要素プロパティ値を表示するため。

以下にある**プロパティ**リストから選択して、ユーザー設定要素プロパティを追加することができます。

- ・ **パーツリストのプロパティ**ダイアログボックスの**列タブ**で。
- ・ **プロパティテキストを選択**ダイアログボックスで

プロパティ名に付加された文字(**要素のプロパティ**)を探します。

例

保守(要素のプロパティ)

ペンキ(要素のプロパティ)

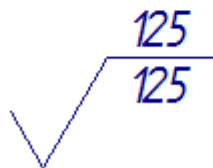
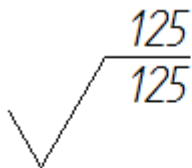
詳細情報については、使用例: パーツリストにユーザー設定要素プロパティを表示を参照してください。

この機能強化では、新しいプロパティテキスト出力修飾子/OP(要素プロパティ)が導入されました。この情報は、参照テキストとプロパティテキストの出力を変更する書式コードのテーブルに追加されました。

表面性状記号のシェルフ線

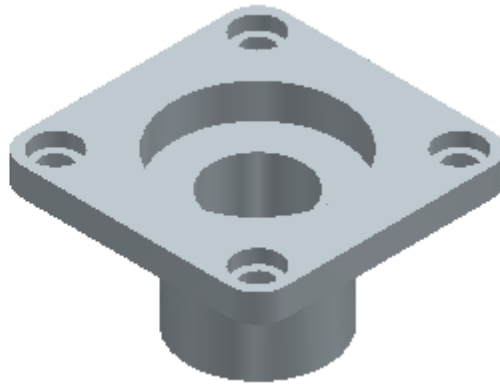
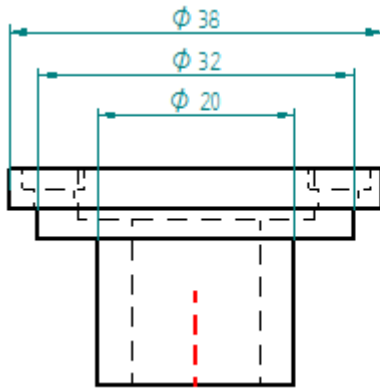
寸法のスタイルでは、表面性状記号の注釈のテキストの上または下に表示されるシェルフ線の長さを指定することができます。新しいプロパティの**記号オーバーライン延長**は、**寸法のスタイル**ダイアログボックスの**注釈**タブにあります。**フォントが斜体**に設定されているとき、このオプションを使用して、線分を確実に注釈文字の全長まで延長することができます。

入力した値にフォントサイズを乗じます。下図に示す最初の表面性状記号では、線分の長さはデフォルト値の0.0です。

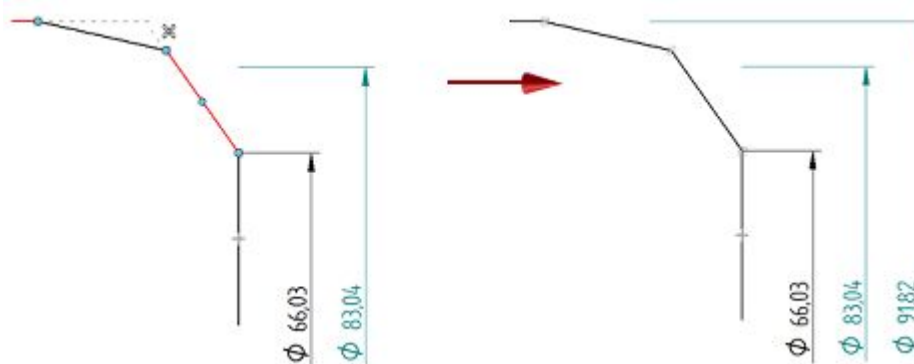


対称直径寸法の機能強化

対称直径寸法コマンド  に多くの機能強化が行われました。



- ・ ワークフローの改善 – 対称直径寸法の配置が迅速かつ簡単になりました。
 - 測定の起点となる中心軸を識別するとき、それはハイライト色で表示されます。
 - 最初の寸法を配置する前に、Altキーを押して位置揃えを90度変更することができます。または、Shiftキーを押して、2つの点を配置することができます。
 - 最初の寸法を配置した後、測定する次の幾何要素を1回クリックすると、追加の寸法が配置されます。
- ・ 対称直径寸法は、配置時に、または新しい寸法がスタックに追加されたときに、並列または同じ向きに、あるいは間隔を置いて自動的に配置されます。
- ・ ドラフトでは、図面ビューの間に、対称直径寸法を配置することができます。
- ・ 交点を使用して、2Dおよび3D PMI対称直径寸法を配置することができます。



- ・ 新しい書式設定オプションを対称直径寸法で使用できます。
 - **代替テキスト位置** – スタックおよびグループ化された対称直径寸法の寸法文字の位置を入れ替えて、寸法を読みやすくします。このオプションは、[寸法線と累進寸法]タブ([寸法のスタイル]および[寸法のプロパティ])にあります。

- **下線記号およびプレフィックス** – 対称直径寸法の寸法線がすべての寸法文字の下まで延長されるように指定します。このオプションは、**寸法線と累進寸法**タブにあります。
- **対称直径寸法を抑制** – 直径記号を非表示にします。このオプションは、**端末記号と記号**タブ(寸法のスタイルと寸法のプロパティ)にあります。

・ 同心直径の寸法は、位置揃えされたグループ内に作成されます。つまり、次のような操作が可能です。

- 位置揃えされたグループ内の任意の寸法をドラッグすると、スタック内のすべての寸法がそれと一緒に調整されます。
- Altキーを押したまま、位置揃えされたグループ内の単一寸法をドラッグして、グループ内の他の寸法から独立して移動させます。
- Shiftキーを押したままドラッグして、2つの寸法の間隔を調整します。
- 以下のコマンドを使用して、寸法位置揃えグループの寸法のメンバーシップを管理します。

- **位置揃えセットからの除去**

- **位置揃えセットの分解**

- **位置揃えセットの分割**

詳細については、対称直径寸法の配置のヘルプトピックを参照してください。

注釈の保存設定値の共有

ドラフトおよびスケッチの注釈および寸法テキスト、およびPMIの保存設定値に機能強化が行われました。

- ・ 次のオブジェクトタイプの保存設定値が使用可能になりました。
 - バルーン – バルーンの高さ、バルーンの形状、辺の数、補助記号(上)、補助記号(前)、補助記号(下)、補助記号(後)、向き、およびテキストの位置揃えのプロパティを保存します。
 - 辺条件記号 – 方向許容差 1、上限許容差、下限許容差、方向許容差 2、文字のない記号、および引出線に全周記号を付けるのプロパティを保存します。辺条件記号の保存設定値は、現在のISO/DINと以前のISO/DINの両方の図面規格に対して使用可能です。
 - 寸法補助記号 – 補助記号(上)、補助記号(前)、補助記号(後)、補助記号(下)、補助記号(下)2、および補助記号(下)の水平位置揃えのプロパティを保存します。
- ・ 注釈の保存設定値は、個別のテキストファイルに保存されるので、他のユーザーと共有することができます。これらのテキストファイルは、..**¥Program Files¥Solid EdgeST9¥Template¥Reports**フォルダ内の個別のテキストファイルに保存されます。それらは、注釈タイプの名前が付けられます(例えば、**DraftBalloon.txt**、**DimensionPrefix.txt**、および**DraftEdgeCondition.txt**)。

注記

注釈のすべての保存設定値は、外部ファイルに保存されるようになったので、他のユーザーと共有することができます。Solid Edge ST9の前は、公差記入枠およびの表面性状記号の保存設定値は、それらが保存された文書にのみ存在しました。これらの以前保存した設定値の詳細については、*旧式の注釈保存設定値の作業を参照してください。

テキスト編集のショートカットメニュー

テキストを入力および編集することのできるダイアログボックスでは、以下のコマンドのショートカットメニューが使用可能です。

- ・ 元に戻す
- ・ [切り抜き]コマンド
- ・ コピー
- ・ 貼り付け
- ・ 削除
- ・ すべて選択

プロパティダイアログボックスのテキストフィールドでは、このショートカットメニューを使用できます。例:

- ・ 全般タブでは、引出テキストボックスのテキスト、テクニカル要件のテキスト、および辺条件のテキストを変更するとき。
- ・ タイトルタブでは、テーブルのタイトルを変更するとき。
- ・ 表題タブでは、図面ビューの表題を変更するとき。

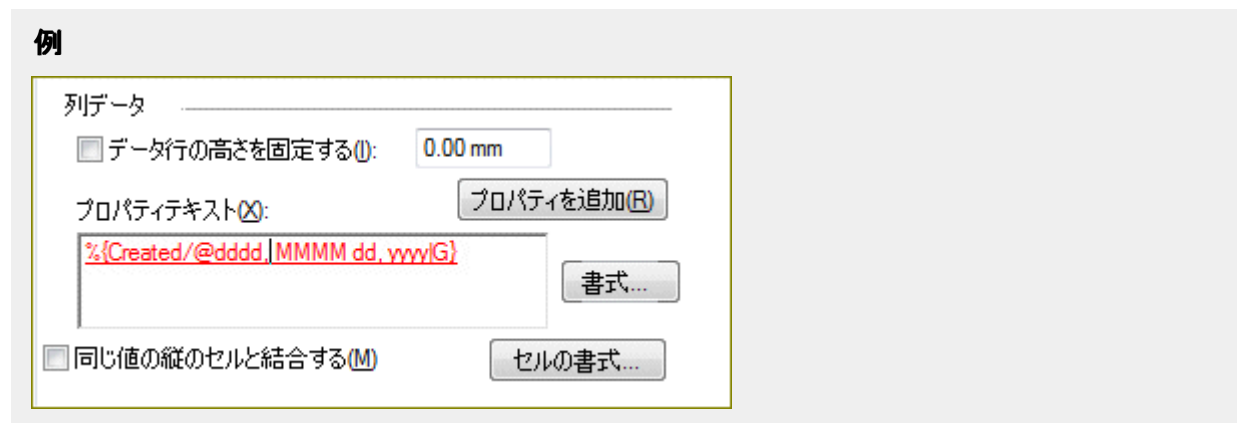
テーブルデータ列の値の書式設定

書式の値ダイアログボックスを使用して、テーブルの列に表示されるプロパティテキスト値を書式設定することができるようになりました。以前は、テーブルタイトルのプロパティテキストのみが書式設定可能でした。

テーブルデータのセルのプロパティテキストの解決値に次のタイプの書式設定を指定することができます。

- ・ 実数値の精度、単位なし、または二重単位。
- ・ 日付値の日、日付、および時間フォーマット。
- ・ テキスト値のテキストケース。

書式の値ダイアログボックスを、選択したテーブルの**プロパティ**ダイアログボックスの**列タブ**の**書式設定**ボタンを使用して開くことができます。



参照およびプロパティテキストの出力を変更する書式コードを、列定義の**プロパティテキスト**ボックスに直接キー入力することもできます。

列データ値の書式設定は穴テーブルおよびパーツのファミリーテーブルを除くすべてのテーブルで使用可能です。

第 8 章 文書管理における機能強化

Solid Edge Teamcenter Client

ソフトウェアの互換性

Solid Edge Embedded Client ST9 は、以下に対応しています。

Solid Edge	Teamcenter Rapid Start	Teamcenter 10.1	Teamcenter 11.2	
ST9	10.1.5.1 11.2.1	10.1.5.1 AW3.1	11.2.1 AW3.1	
Teamcenter Rapid Start は、リリース 10.1からTeamcenter Express に取って替わります。 Teamcenter 11.2には、WindowsでUTF-8(TcServerとデータベース間で使用されるエンコード)のサポートが追加されています。 Solid Edge ST8MP2は、Teamcenter 11.2で、生産での使用に認定されています。 Active Workspace(AW) 3.1は機能削減で10.1.5/11.2.1に対応します。完全な機能は、10.1.6/11.2.2を使用します。				

Solid Edge Embedded Client ST9は、以下をサポートしていません。

- Teamcenter 8.x、9.x、10.0、11.1
Solid Edge ST8は、Teamcenter 9.1をサポートする最後のリリースでした。
- 8.x以前のTeamcenterリリース。
- Teamcenter Express

Teamcenterの基本設定

このリリースでは、以下の新規Teamcenter基本設定が採用されています。

ActiveWorkspaceHosting.SEEC.URL

Active Workspaceクライアントをホストするときに、Solid Edgeで使用するURLを指定します。この基本設定は、ActiveWorkspaceHosting.URLの基本設定の前に評価されます。

AWC_SEEC_OpenSupportedTypes

Active Workspaceで選択された指定のオブジェクトタイプが、Solid Edgeで開くようにします。アイテム、アイテム改訂、アイテムのサブタイプおよびアイテムの改訂、およびSolid Edgeのデータセットタイプのみがサポートされます。

SEEC_BOM_Precision_Override

新しいSolid Edgeアセンブリの作成中に使用されるBOM精度を指定します。有効な値は、0、1、または2です。Teamcenter Rich Clientと同じ設定を使用する場合は、0に設定します。インプリサイスにオーバーライドする場合は、1に設定します。プリサイスにオーバーライドする場合は、2に設定します。デフォルトは0です。

SEEC_Enable_CreatePackage

真(1)に設定すると、Solid Edgeキャッシュアシスタントツールバーに[パッケージを作成]コマンドを追加します。デフォルトは0です。

SEEC_Enable_MultipleRevisions

真(1)に設定すると、Solid Edgeは、単一のSolid Edgeセッションで複数の改訂と動作します。デフォルトは0です。

SEEC_Enable_AssemblyConstructions

作図補助要素としてマークされたアセンブリの要素がTeamcenterのBOMビュー改訂に追加されているかどうかを判断します。作図補助要素としてすべての要素がマークされているときは、関係を使用してアイテム改訂がアセンブリに接続されます。

SEEC_Item_Type_Sort

共通プロパティダイアログボックスにリストするアイテムタイプの順番を特定します。各SEEC_ItemTypeの基本設定によって定義された順番を使用する場合は、0に設定します。階層リストや並替えリストを作成する場合は、1に設定します。デフォルトは1です。

SEEC_ItemTypeList_ExcludedTypes

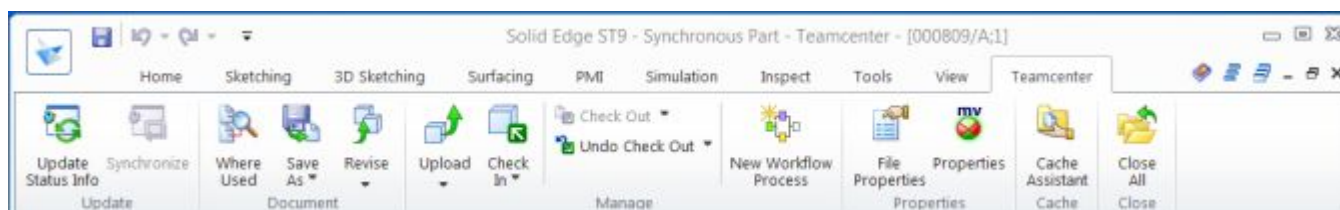
SEEC_ItemTypeListの基本設定が「すべて」である場合、この基本設定でリストされたアイテムのタイプは削除されます。新規の文書をTeamcenterに保存すると、アイテムのタイプの結果のサブセットが使用できるようになります。

追加情報については、ユーザーおよび管理者向けTeamcenter Integration for Solid EdgeガイドのTeamcenterの基本設定のセクションを参照してください。

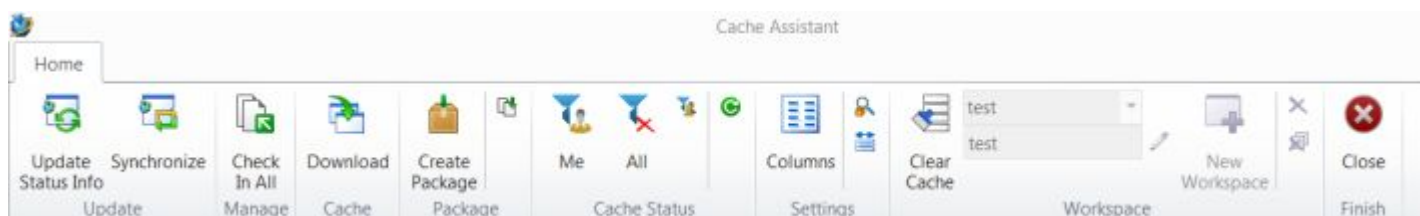
更新されたユーザーインターフェース

Solid Edge Embedded Clientのユーザーインターフェースが更新され、コマンドに簡単に直接アクセスして、ユーザーエクスペリエンスを向上させることができました。更新には以下の内容が含まれています。

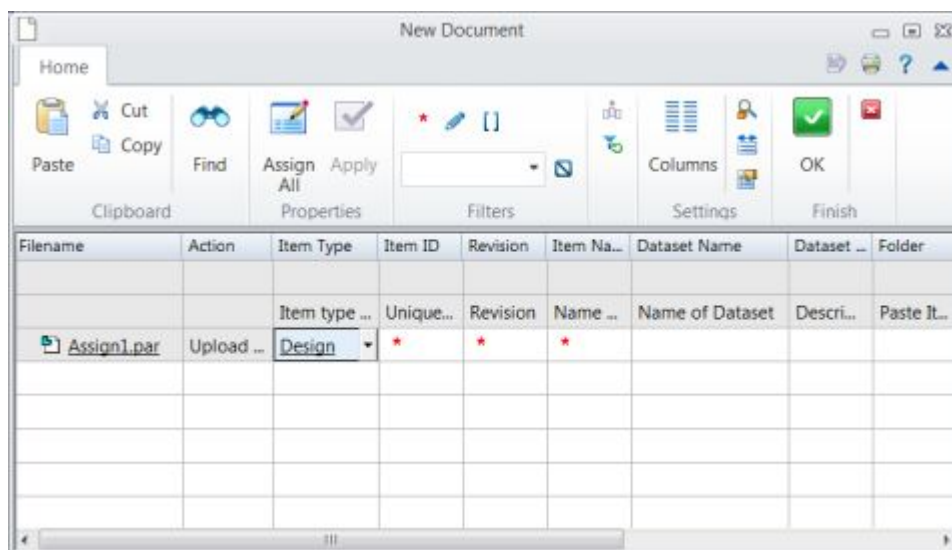
- すべてのTeamcenterコマンドを1つの場所に集めるSolid Edgeコマンドリボン上の[Teamcenter]タブ。



- 全面的に刷新された対話式のファイルのプロパティ(SEEC)ダイアログボックス。
- Teamcenterへの接続に関する詳細に簡単にアクセスできるようにする連結ウィンドウとして表示されるユーザーセッション情報。
- コマンドのリボンを含む、更新されたキャッシュアシスタント。



- リボンのコマンドを含み、列を非表示にして、垂直方向に必須のプロパティを表示するためのコマンドをプラスした、新規文書および文書をアップロードなどの更新された共通プロパティダイアログボックス。



- 改善された開くダイアログボックス。

新しい[ファイルのプロパティ]ダイアログボックス

ファイルのプロパティダイアログボックスが更新され、新しい機能の追加により大幅な機能強化が行われています。

Property	Value	Type	Mapping	Owner
Teamcenter (14)				
Item (4)				
Type	Design	String[260]	Teamcenter Item Type	
ID	000809	String[128]	Document Number	
Name	* 000809	String[128]	Title	
Description		String[240]	ItemDescr	BOTH
ItemRevision (5)				
Revision	A	String[128]	Revision	
owning_group	Engineering	String[128]	Owning_Group	PDM
Description		String[240]	ItemRevDescr	BOTH
owning_user	WEBB, N	String[128]	Author	PDM
Name	000809	String[260]		
Dataset (5)				
Name	000809/A	String[260]	Dataset Name	
Description		String[260]		
Date Released		Date	Dataset_Status_Date	PDM
last_release	Working	String[32]	Dataset_Status	PDM
Version	3	String[260]		

新しいダイアログボックスの特長は以下の通りです。

- ・ 対話式であり、Teamcenterと統合される。
- ・ 縦書き書式でSolid Edgeファイルのプロパティを表示する。
- ・ グループ別にプロパティを整理する。
- ・ 表示可能な、または実際の名前の使用を決定する基本設定に従う。
- ・ Teamcenterの値リストを統合する。
- ・ コンテンツの印刷、またはコンテンツのクリップボードへの出力が可能である。

注記

機能強化された**ファイルのプロパティ**ダイアログボックスにアクセスするには、Teamcenter管理環境で文書を開いている必要があります。

詳細については、ファイルのプロパティ(SEEC)ダイアログボックスのヘルプトピックを参照してください。

改善された[開く]ダイアログボックス

更新された[開く]ダイアログボックスには以下が含まれます。

- ・ コマンドリボン。
- ・ プロパティデータの強化されたプレゼンテーションを含む、改善されたレイアウト。
- ・ [高度な検索]コマンドを使用せずに、アイテムIDのクイッククエリを行うアイテムIDテキストボックス。
- ・ 荷重のオプションへのオーバーライド。

詳細情報は、[ファイルを開く]ダイアログボックス(SEEC)とアイテムのクイック検索のヘルプトピックを参照してください。

ユーザーセッション情報の更新

ユーザーセッション情報は、これまで以上に入手しやすくなっています。

- ・ Teamcenterにログインして、Solid Edgeスタートページからユーザーセッション情報にアクセスすることができます。
- ・ Teamcenterに接続すると、現在のキャッシュワークスペースが表示されます。
- ・ 文書をチェックアウトして、いつでもユーザー設定にアクセスして、変更することができます。

詳細については、ユーザーセッション情報のヘルプトピックを参照してください。

複数の改訂を開く

同じSolid Edgeセッションで1つの文書の複数の改訂を開くことができるようになりました。この新しい機能の内容を以下に示します。

- ・ 設計レビューを容易にする手助けをします。
- ・ 設計者は、1つの文書の異なる改訂を別のウィンドウに表示することができます。

追加情報については、文書の複数の改訂の使用のヘルプトピックを参照してください。

複数の改訂のサポートを有効にするTeamcenterの基本設定、**SEEC_Enable_MultipleRevisions**は、ユーザーおよび管理者向けのSolid EdgeガイドのTeamcenter統合で説明されています。

ワークフロー処理の開始

Solid Edge内からTeamcenterワークフローを開始することができます。ワークフローは、特定のプロセス中に関係者間で文書、情報およびタスクを移動します。**新規ワークフロープロセス**コマンドで可能な処理は次の通りです。

- ・ ワークフロー処理のターゲットにするアイテム改訂の選択を可能にする。
- ・ 単一のワークフローにターゲットを送信する。
- ・ 例外を処理して、修正操作を提示する。

新規ワークフロープロセスコマンドは、以下から使用可能です。

- ・ [アプリケーション]メニュー → [管理]。
- ・ Teamcenterコマンドリボン
- ・ アセンブリ環境の**パスファインダ**のショートカットコマンド。

詳細については、[新規ワークフロープロセス]コマンドのヘルプトピックを参照してください。

説明付の値リスト(LOV)

値リストに説明を統合して、値とその対応する説明の両方が、リスト内の1つの行に含まれるようにすることができます。説明を含めるために個別のプロパティをマッピングする必要はありません。この機能を使用すると、リストから適切な値を選択する際に説明を利用することで、ユーザーによる操作を改善することができます。

この新しい機能は、以下のLOVタイプに実装されます。

- ・ 包括的
- ・ 示唆的
- ・ カスケードまたは階層
- ・ プロパティ依存アタッチメント付のLOV
- ・ 独立LOV

この機能は[構造エディタ - Teamcenter]、および[Teamcenterに追加 - インタラクティブ]に対しても使用可能です。

追加情報は、値のリスト(LOV)のヘルプトピックで入手することができます。値リストに影響を与えるTeamcenterの基本設定については、ユーザーおよび管理者向け*Teamcenter Integration for Solid Edge*ガイドに説明されています。

外部共同作業のサポート

キャッシュアシスタントの**パッケージを作成**コマンドには、デザインパートナーに送信するデータの**パッケージを作成**し、共同作業の完了後にデータをTeamcenterに再統合する機能が用意されています。**パッケージを作成**コマンドを使用して、次の操作を実行することができます。

- ・ 保存のために管理外コピーを作成します。
- ・ 作業を実行してからデータを返す連携パートナーとの共同作業のために、管理外コピーを作成します。
- ・ データを実装して、データがオフラインで使用できるようにします。例えば、デザインレビュー中です。

詳細情報は、ヘルプトピックの、キャッシュワークスペースの**パッケージを作成**するを参照してください。

Active Workspaceの機能強化のサポート

変更管理、ワークフロー、要件管理、およびビジュアライゼーションにActive Workspaceを使用して、作業の達成を支援します。Solid Edge ST9では、Active Workspaceの2つの統合がサポートされます。

- ・ ホストされるActive Workspace

Solid Edgeを起動してTeamcenterにログインした後、連結ウィンドウを介して、統合されたTeamcenterクライアントのActive Workspaceにアクセスします。



- ・ スタンドアロンのActive Workspace

Active Workspaceにログインするブラウザウィンドウからアクセスされ、Teamcenterで管理されているSolid Edgeデータを検索し、Solid Edgeに文書を直接送信します。

アイテム、アイテム改訂、またはSolid Edgeデータセットを選択してから、**Solid Edgeで開く**をクリックして、関連付けられているデザインデータをSolid Edgeで開くことができます。

両方のインスタンスとも、以下の機能を提供するActive Workspace 3.1をサポートします。

- ・ 開く対象の複数の文書を選択する。
- ・ 構成されている構造を開く。
- ・ Solid Edgeグラフィックウィンドウにドラッグアンドドロップする。
- ・ [構成要素を追加]のコマンドを使用して、選択したモデルをアクティブなアセンブリに追加する。

追加情報については、Active Workspace in Solid Edgeを参照してください。Teamcenter基本設定は、ユーザーおよび管理者向けTeamcenter Integration for Solid Edgeガイドで説明されています。

キャッシュアシスタントで並べ替え

キャッシュアシスタントは、複数列の並べ替えをサポートしています。ショートカットコマンド**並べ替え**を使用して、列を選択して、以下のようにコンテンツを並べ替えることができます。

- ・ 昇順(最小の番号またはアルファベットの最初を並べ替えたリストの最初に表示)
- ・ 降順(最大の番号またはアルファベットの最後を並べ替えたリストの最初に表示)
- ・ アルファベットおよび数値順(アルファベットの文字と混在して数字を含むデータの論理的な並べ替え)

例

1
1a
2
2a
2b

- ・ アルファベット順(アルファベットの最初を並べ替えたリストの最初に表示)

注記

ある列で、複数の行に同じ値の繰り返しがある場合は、並べ替える値として、別の列を追加して選択することができます。追加で並べ替える列とする次の列を追加するには、その列の見出しを[Shift]キーを押しながらダブルクリックします。

詳細については、複数の列の並べ替えのヘルプトピックを参照してください。

アイテムタイプリストの表示順への機能強化

Teamcenter管理者は、アイテムタイプリストの表示順への2つの新しい機能強化を活用できます。以下の内容が実行可能になりました。

- ・ 共通プロパティダイアログボックスにリストされているアイテムタイプの順番の特定。順番は文書の種類ごとで、Teamcenter基本設定 **SEEC_Item_Type_Sort** によって定義されます。
- ・ Teamcenter基本設定 **SEEC_Item_Type_Sort** を定義する場合の、アイテムタイプリストへの説明またはヘルパーテキストの追加。アイテムタイプリストに表示される記述情報は、表示専用で選択できません。

この新しい機能は、Solid Edge Embedded Client、構造エディタ、およびTeamcenterに追加 – インタラクティブに適用されます。

追加情報は、アイテムタイプリストの表示順の設定、およびアイテムタイプリストへの記述情報の入力で使用可能です。Teamcenter基本設定は、ユーザーおよび管理者向け *Teamcenter Integration for Solid Edge* ガイドで説明されています。

データ準備ツールの更新

Solid Edgeのインストール時に新しいSolid Edgeデータ準備ユーティリティが組込まれます。このユーティリティは、管理外のSolid Edge文書をTeamcenter、Insight、またはSolid Edge SP管理環境にインポートする前に、解析および準備する手助けをします。この新しいユーティリティは次の操作を行います。

- ・ 以前は3つの別々のツールであった、解析、リンク修復、および修正を1つのツールに結合します。
- ・ ユーザー設定プロパティと逆方向リンク情報に関するレポートを生成する機能を提供します。
- ・ オプションと共にプログラム¥Program Files¥Solid Edge ST9¥Program¥DataPrepUtility.exeを使用して、コマンドライン機能を維持します。

詳細については、Solid Edgeデータ準備ユーティリティのヘルプトピックを参照してください。

新しい[使用内訳]オプション

使用内訳コマンドへの入力として改訂規則を選択することができるようになりました。使用内訳の検索結果ダイアログボックスでは、次の操作を実行することができます。

- ・ 現在の文書が正確に配置されている場所にBOMビューの改訂を表示するには、**プリサイズを使用**チェックボックスを選択します。
- ・ 現在の文書が使用されている場所にBOMビューの改訂を表示するには、**プリサイズを使用**チェックボックスをクリアして、改訂規則を選択します。

詳細については、[使用内訳]ダイアログボックス(検索結果)のヘルプトピックを参照してください。

構造エディタ – Teamcenter

インデントリストの並べ替え

構造エディタは、インデントリスト内の並べ替えをサポートしています。ショートカットコマンド**並べ替え**を使用して、列を選択して、以下のようにコンテンツを並べ替えることができます。

- ・ 昇順(最小の番号またはアルファベットの最初を並べ替えたリストの最初に表示)
- ・ 降順(最大の番号またはアルファベットの最後を並べ替えたリストの最初に表示)
- ・ アルファベットおよび数値順(アルファベットの文字と混在して数字を含むデータの論理的な並べ替え)

例

1
1a
2
2a
2b

- ・ アルファベット順(アルファベットの最初を並べ替えたリストの最初に表示)

注記

ある列で、複数の行に同じ値の繰り返しがある場合は、並べ替える値として、別の列を追加して選択することができます。追加で並べ替える列とする次の列を追加するには、その列の見出しを[Shift]キーを押しながらダブルクリックします。

詳細情報については、複数の列の並べ替えのヘルプトピックを参照してください。

Solid Edge 構造エディタのスタンドアロンインストールの廃止

スタンドアロンアプリケーションとして Solid Edge 構造エディタをダウンロードするオプションは廃止されます。Solid Edge と Teamcenter Integration for Solid Edge (SEEC) をインストールして、[スタート]メニューから構造エディタを実行できるようになりました。

[スクロール固定]コマンドの削除

構造エディタウィンドウは、現在は相互に同期して自動的にスクロールします。**スクロール固定**コマンドは、**表示メニュー**から削除されました。

ユーザーセッション情報の更新

ユーザーセッション情報は、これまで以上に入手しやすくなっています。

- ・ Teamcenterにログオンして、スタートページからユーザーセッション情報にアクセスすることができます。
- ・ Teamcenterに接続すると、現在のキャッシュワークスペースが表示されます。
- ・ 文書をチェックアウトして、いつでもユーザー設定にアクセスして、変更することができます。

詳細については、[構造エディタ]および[Teamcenterに追加] – インタラクティブのヘルプで使用可能なユーザーセッション情報のヘルプトピックを参照してください。

Solid Edgeのオプションの[管理]ページへのアクセス

オプションダイアログボックスの管理ページは、[Teamcenterに追加 – インタラクティブ]および[構造エディタ]からアクセスできるようになりました。以下のオプションを含む、複数の新しいオプションが利用することができます。

- ・ Teamcenterクライアント通信システム設定(TCCS)
- ・ Solid EdgeアセンブリのBOMビュー改訂の作成
- ・ バリエーション規則の使用
- ・ アイテムの複数の改訂を含む構造

詳細情報は、ヘルプトピックの管理ページ([Solid Edgeのオプション]ダイアログボックス)を参照してください。

Teamcenterに追加 – インタラクティブ

インデントリスト内の並べ替え

Teamcenterに追加 – インタラクティブは、インデントリスト内の並べ替えをサポートできるようになりました。ショートカットコマンド**並べ替え**を使用して、列を選択して、以下のようにコンテンツを並べ替えることができます。

- ・ 昇順(最小の番号またはアルファベットの最初を並べ替えたリストの最初に表示)
- ・ 降順(最大の番号またはアルファベットの最後を並べ替えたリストの最初に表示)
- ・ アルファベットおよび数値順(アルファベットの文字と混在して数字を含むデータの論理的な並べ替え)

例

1
1a
2
2a
2b

- ・ アルファベット順(アルファベットの最初を並べ替えたリストの最初に表示)

注記

ある列で、複数の行に同じ値の繰り返しがある場合は、並べ替える値として、別の列を追加して選択することができます。追加で並べ替える列とする次の列を追加するには、その列の見出しを[Shift]キーを押しながらダブルクリックします。

詳細については、複数の列の並べ替えのヘルプトピックを参照してください。

命名規則のサポート

ユーザー設定プロパティの**Pattern_ItemID**と**Pattern_Revision**を使用すると、アイテムIDと改訂のいずれかまたは両方でアイテムタイプに命名規則があり、Teamcenterに文書をインポートしている場合、命名規則をファイルに自動的に割り当てることができます。サポートされるファイルタイプは次の通りです。

- ・ Solid Edge 文書の種類(.par、.asm、.dft、.psm、.pwd)
- ・ Microsoft Word (.doc、.docx)
- ・ Microsoft Excel (.xls、.xlsx)
- ・ 画像(.bmp、.tiff、.jpgなど)
データ準備ツールを使用して値を実装する場合、プロパティは.tmpファイルに保存されます。

追加情報については、ヘルプトピック命名規則と改訂の命名規則を参照してください。

ユーザーセッション情報の更新

ユーザーセッション情報は、これまで以上に入手しやすくなっています。

- ・ Teamcenterにログインして、Solid Edgeスタートページからユーザーセッション情報にアクセスすることができます。
- ・ Teamcenterに接続すると、現在のキャッシュワークスペースが表示されます。
- ・ 文書をチェックアウトして、いつでもユーザー設定にアクセスして、変更することができます。

詳細については、ユーザーセッション情報のヘルプトピックを参照してください。

Solid Edgeのオプションの[管理]ページへのアクセス

オプションダイアログボックスの管理ページは、[Teamcenterに追加 – インタラクティブ]および[構造エディタ]からアクセスできるようになりました。以下のオプションを含む、複数の新しいオプションが利用することができます。

- ・ Teamcenterクライアント通信システム設定(TCCS)
- ・ Solid EdgeアセンブリのBOMビュー改訂の作成
- ・ バリエーション規則の使用
- ・ アイテムの複数の改訂を含む構造

詳細情報は、ヘルプトピックの管理ページ([Solid Edgeのオプション]ダイアログボックス)を参照してください。

Solid Edge SP

より速い削除パフォーマンス

データの削除を選択すると、Solid Edge SPはさまざまなレベルの整合性チェックを提供するようになりました。これらにより、より速くオブジェクトを削除する柔軟性が得られ、他のタスクに素早く戻ることができます。さらに、**削除**ダイアログボックスへの幾つかのユーザビリティの改善により、データ整合性チェックからのフィードバックを読んで理解するのがより簡単になります。



サインオフ情報の保持

ワークフローのサインオフ情報が、ワークフローログのリストではなく、Solid Edge SPでサポートするデータベースに保持されるようになりました。そのため、この重要な情報を安全かつ確実に取込むことができます。サインオフ情報は、すべてのユーザーが利用することができます。これは読取り専用です。既存のサインオフ情報を移行し、表記設定を更新するユーティリティも用意されています。

Workflow ID	Workflow Title	Workflow Initiator	Object Name	Number	Revision	Task Name	Task Assigned To	Task Status	Task Completion Date	Current Status	Status Name
2c704483-63de	Prefer-OFF	SHAREPOINT\system	CSA-101_1_Part-Revision	CSA-101	1	Assign Status	NA	Completed	12/17/2015 2:48:37 PM	60	In Approval
2c704483-63de	Prefer-OFF	SHAREPOINT\system	CSA-101_1_Part-Revision	CSA-101	1	Review	Bhadekar, Kaustubh	Approved	12/17/2015 2:48:35 PM	50	In Review
2c704483-63de	Prefer-OFF	SHAREPOINT\system	CSA-101_1_Part-Revision	CSA-101	1	Review	Kulkarni, Deepak (Pune)	Approved	12/17/2015 2:48:21 PM	50	In Review

パーツライブラリ内でピン固定された場所

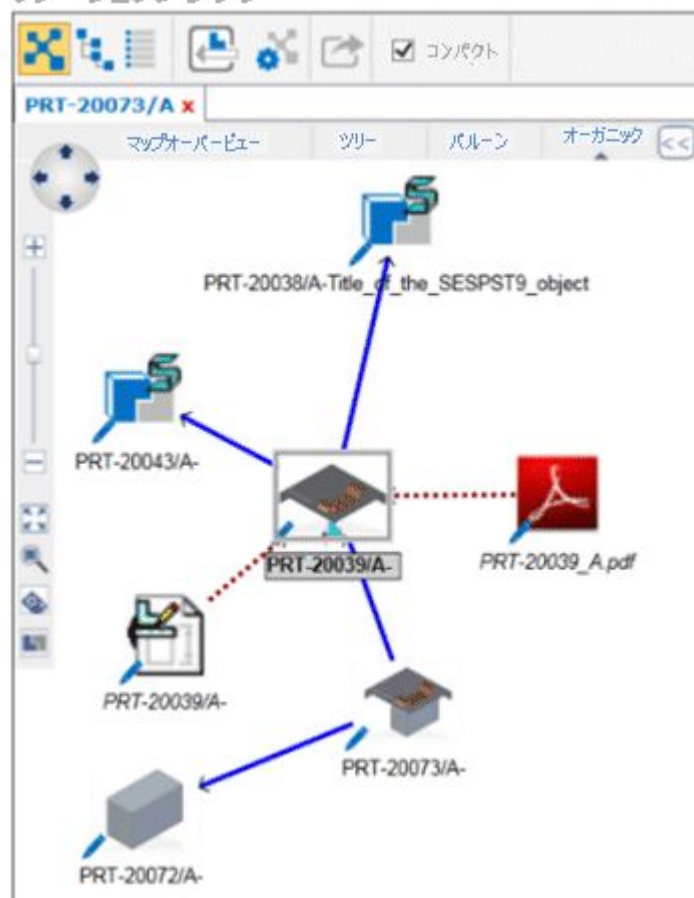
ボタンのクリックで、**パーツライブラリ**の内側に最大10個のキー位置へのショートカットを作成できるようになりました。プログラム可能なこれらのボタン(ピン固定された位置)を使用すると、フォルダ構造を移動し直す代わりに、1回のクリックで、保存した場所にアクセスすることができます。これは、Solid Edge SPで新しいデザインを作成するときに役立ちます。さらに、最近開いたファイル、最近の位置、およびキャッシュされているファイルに関する情報にアクセスできるようになりました。



アセンブリのすべての図面およびpdfを表示する新しいワンクリック操作

Solid Edge SP Webクライアントは、**リレーションブラウザ**の**関連するドラフトを表示**ボタンを使用して、すべての(見つからない)ドラフトおよびpdfを表示することができるようになりました。これにより、使用内訳コマンドを個別に実行する面倒なタスクがワンクリック操作に置換えられ、レビューおよび承認プロセスが高速化します。

リレーションブラウザ



材料表	アドレス	番号	改訂	パーツ...	コンテ...	数量	ファイ...	改訂...	関係ドラフト	関係PDF
PRT-00179_B_Part...	http://...	PRT-00...	B	-	SE-Ass...	1	PRT-00...	Part-Re...		
PRT-00171_B_P...	http://...	PRT-00...	B	PROJE...	SE-She...	1	PRT-00...	Part-Re...	はい	はい
PRT-00198_B_P...	http://...	PRT-00...	B	PROJE...	SE-Part	1	PRT-00...	Part-Re...	はい	はい
PRT-00194_B_P...	http://...	PRT-00...	B	PROJE...	SE-Part	4	PRT-00...	Part-Re...	いいえ	いいえ
PRT-00193_B_P...	http://...	PRT-00...	B	PROJE...	SE-Part	2	PRT-00...	Part-Re...	はい	はい
PRT-00196_B_P...	http://...	PRT-00...	B	PROJE...	SE-Part	2	PRT-00...	Part-Re...	はい	はい
PRT-00186_B_P...	http://...	PRT-00...	B	PROJE...	SE-Ass...	2	PRT-00...	Part-Re...		
PRT-00192_B...	http://...	PRT-00...	B	PROJE...	SE-She...	1	PRT-00...	Part-Re...	はい	はい
PRT-00174_B...	http://...	PRT-00...	B	PROJE...	SE-She...	1	PRT-00...	Part-Re...	はい	はい
PRT-00195_B...	http://...	PRT-00...	B	PROJE...	SE-Part	1	PRT-00...	Part-Re...	はい	はい
PRT-00182_B...	http://...	PRT-00...	B	PROJE...	SE-Part	1	PRT-00...	Part-Re...	はい	はい
PRT-00177_B_P...	http://...	PRT-00...	B	-	SE-Part	1	PRT-00...	Part-Re...	いいえ	いいえ
PRT-00190_B_P...	http://...	PRT-00...	B	PROJE...	SE-She...	1	PRT-00...	Part-Re...	いいえ	いいえ

改善された全体的なSolid Edge SPユーザビリティ

次を追加して、Solid Edge SPの全体的なユーザビリティと効率を改善しました。

- ・ **リンクされたオブジェクト**ダイアログボックスから新規フォルダを作成します。
- ・ **コンテンツブラウザ**から非アクティブなカートを表示および非表示にします。
- ・ **プレビュー/プロパティカード**は、最後に修正されたサイズを保持するようになりました。
- ・ Solid Edge SP文書をEメールに添付して送信し、文書共有を強化します。
- ・ Solid Edge SP、Solid Edge SPビューア、および構造エディタで**お気に入り**フォルダを使用します。
- ・ **検索**Webパーツでの検索時に、Enterキーを押すことで、最新の検索結果を表示します。
- ・ Microsoft Officeアプリケーション内から新しいSESP-文書を作成します。
- ・ ワークフローの改善:
 - 変換ワークフローハンドラは、新しく追加された**Translated_File_Location**基本設定によって、出力場所を一貫して記憶するようになりました。
 - ワークフロー開始フォーム上の**タイトル**ボックスを必須エントリにすることで、ワークフローの表示を改善しました。
 - ワークフローが失敗した場合に、Eメール通知でワークフローイニシエーターに通知されるようになりました。

データ準備ツールの更新

Solid Edgeのインストール時に新しいSolid Edgeデータ準備ユーティリティが組込まれます。このユーティリティは、管理外のSolid Edge文書をTeamcenter、Insight、またはSolid Edge SP管理環境にインポートする前に、解析および準備する手助けをします。この新しいユーティリティは次の操作を行います。

- ・ 以前は3つの別々のツールであった、解析、リンク修復、および修正を1つのツールに結合します。
- ・ ユーザー設定プロパティと逆方向リンク情報に関するレポートを生成する機能を提供します。
- ・ オプションと共にプログラム¥Program Files¥Solid Edge ST9¥Program¥DataPrepUtility.exeを使用して、コマンドライン機能を維持します。

詳細については、Solid Edgeデータ準備ユーティリティのヘルプトピックを参照してください。

Insight

Insightソフトウェアの互換性

Solid Edge	オペレーティングシステム	SQL Server	SharePoint Foundation	SharePoint Server
ST9	Windows Server 2008 R2、2012/2012 R2	2008 R2または2012 R2	Search Server Express 2010 SP2*	2010 SP2*
	2012/2012 R2	2012または2014	2013 SP1	2013 SP1

このリリースのInsightは、Microsoft Office SharePoint 2016ではサポートされていません。

SharePoint 2013 SP2には、Search webpartでの既知の問題が含まれています。修正プログラムを含めたSharePoint 2013 SP2を推奨します。

* SharePoint 2010は、Microsoft SQL Server 2014ではサポートされていません。SharePointおよびSQL Serverの互換性については、Microsoft TechNetを参照してください。

Windows Server 2008および2008 R2のライフサイクルは、Solid Edge ST9のリリース前に終了します。Windows Server 2008 R2でのみテストされます。

SQL Server 2008および2008 R2のライフサイクルは、Solid Edge ST9のリリースと共に終了します。SQL Server 2008 R2でのみテストされます。

Microsoft製品のライフサイクル(EoSM)は、以下の通りです。

- ・ 2015/1/13 Windows 2008および2008 R2
- ・ 2015/7/8 SQL Server 2008および2008 R2
- ・ 2015/10/13 SharePoint 2010

Insight ST9は以下はサポートしていません。

- ・ Microsoft SharePoint 2016
- ・ Windows SharePoint Services 3.0

- ・ Microsoft Office SharePoint Server 2007
- ・ Microsoft SQL Server Express
- ・ Microsoft SQL 2005

使用可能な最新情報については、Solid EdgeおよびInsight Serverの個々の**readme**ファイルを参照してください。

Insightのスタンドアロンインストールの廃止

スタンドアロンアプリケーションとしてInsightをダウンロードするオプションは廃止されます。Solid EdgeおよびSolid Edge Insightクライアントをインストールしてから、Insightまたはデザインマネージャをスタートメニューから実行するようになりました。

追加情報は、Solid EdgeのインストールメディアまたはSolid Edgeのヘルプウィンドウからアクセス可能な、*Insight導入ガイド*を参照してください。

インデントリストの並べ替え

Insightは、インデントリスト内の並べ替えをサポートしています。ショートカットコマンド**並べ替え**を使用して、列を選択して、以下のようにコンテンツを並べ替えることができます。

- ・ 昇順(最小の番号またはアルファベットの最初を並べ替えたリストの最初に表示)
- ・ 降順(最大の番号またはアルファベットの最後を並べ替えたリストの最初に表示)
- ・ アルファベットおよび数値順(アルファベットの文字と混在して数字を含むデータの論理的な並べ替え)

例

1
1a
2
2a
2b

- ・ アルファベット順(アルファベットの最初を並べ替えたリストの最初に表示)

注記

ある列で、複数の行に同じ値の繰り返しがある場合は、並べ替える値として、別の列を追加して選択することができます。追加で並べ替える列とする次の列を追加するには、その列の見出しを[Shift]キーを押しながらダブルクリックします。

詳細については、複数の列の並べ替えのヘルプトピックを参照してください。

データ準備ツールの更新

Solid Edgeのインストール時に新しいSolid Edgeデータ準備ユーティリティが組込まれます。このユーティリティは、管理外のSolid Edge文書をTeamcenter、Insight、またはSolid Edge SP管理環境にインポートする前に、解析および準備する手助けをします。この新しいユーティリティは次の操作を行います。

- ・ 以前は3つの別々のツールであった、解析、リンク修復、および修正を1つのツールに結合します。
- ・ ユーザー設定プロパティと逆方向リンク情報に関するレポートを生成する機能を提供します。
- ・ オプションと共にプログラム¥Program Files¥Solid Edge ST9¥Program¥DataPrepUtility.exeを使用して、コマンドライン機能を維持します。

詳細については、Solid Edgeデータ準備ユーティリティのヘルプトピックを参照してください。

[View & Markup]および[改訂マネージャ]のヘルプ

[改訂マネージャ]の場所

[改訂マネージャ]は、名前がデザインマネージャに変更されています。また全面的な見直しが行われて、ユーザビリティが向上し、最新のルックアンドフィールを備えるようになりました。また、View & Markupをデザインマネージャから分離して、高速検索や使用内訳などのいくつかの新しい機能を追加しました。

詳細については、デザインマネージャとView & Markupのヘルプを参照してください。

第 9 章 シミュレーションの機能強化

方向性のある応力とひずみ結果のプロット

以下の応力とひずみのプロットが、線形静的、モーダル、および座屈解析のシミュレーション結果環境に追加されました。結果のプロットは、解析タイプとメッシュタイプ(四面体、曲面、または混合ボディ)を基に使用できます。

応力プロット

これらの方向性のある応力プロットには、グローバル座標系を基準にして結果が表示されます。

- ・ X垂直応力
- ・ Y垂直応力
- ・ Z垂直応力
- ・ XYせん断応力
- ・ YZせん断応力
- ・ XZせん断応力
- ・ 平板主応力角度

詳細情報は、応力構成要素のプロットを参照してください。

ひずみプロット

これらの方向性のあるひずみプロットには、グローバル座標系を基準にして結果が表示されます。

- ・ X垂直ひずみ
- ・ Y垂直ひずみ
- ・ Z垂直ひずみ
- ・ XYせん断ひずみ
- ・ YZせん断ひずみ
- ・ XZせん断ひずみ
- ・ 平板主ひずみ角度

詳細情報は、応力構成要素のプロットを参照してください。

モーションにおけるアセンブリの解析での慣性逃げ

モデルに拘束を追加せずにモーションにおけるアセンブリの線形静的解析を実行することができるようになりました。以前は、解析を実行するには、少なくとも1つの拘束を適用しなければなりません。

新しいオプション、**慣性逃げ**を使用は、**詳細オプションの解析を作成**ダイアログボックスにあります。

詳細オプション

☐ 反復ソルバ(I)

☐ 大変位解析(P)

☒ 複数のプロセッサを使用(U) 4

モード数(N): 4

振動数範囲(F): 0.000 MHz

幾何形状のチェック(G): オン

NX Nastranコマンドラインのオプション(X):

熱荷重のオプション...

NX Nastranのオプション(R)...

詳細情報は、解析の詳細オプションを参照してください。

曲面メッシュ内の四角形要素の最大化

四角形の曲面メッシュ要素は、三角形メッシュ要素よりも正確な解析ソリューションを作成します。Femap 11.22の1つのオプションがSolid Edgeシミュレーションで利用できるようになり、曲面メッシュ内に四角形要素をできるだけ多く作成し、三角形要素の数を最小にすることを指定します。

新しいオプション**四角形要素を最大化**は、[メッシュのオプション]ダイアログボックスの**曲面メッシュ**タブにあります。これはデフォルトで選択されています。

境界条件の[抑制/抑制解除]コマンド

これで、解析幾何形状に対する個別の荷重や拘束の結果を抑制して評価することができるようになりました。解析を実行するとき、抑制されている境界条件は処理されません。

以下のすべてのタイプの境界条件について、ショートカットメニューで**抑制**コマンドおよび**抑制解除**コマンドを使用できます。

- ・ 構造荷重
- ・ ボディ荷重
- ・ 熱荷重
- ・ 拘束

詳細については、結果を比較するための個別の荷重の抑制を参照してください。

小規模モデルで輻射荷重を処理する新しいオプション

比較的小さな幾何形状と小さなメッシュ要素を備えたモデル上の、輻射エンクロージャ荷重を使用する定常熱伝導解析を解決するために、NX Nastranのオプションを使用できるようになりました。新しいオプション、ZTOLは、[輻射荷重のオプション]ダイアログボックスにあります。

第 10 章 変換機能における機能強化

ブロックのラベルで使用可能となったアスペクト比

ブロックのラベルのプロパティダイアログボックスの新しいアスペクト比オプションでは、ブロックラベルのアスペクト比を指定します。

AutoCAD 変換でサポートされているユーザー設定の線種

Solid Edgeのユーザー設定の線分は、AutoCAD変換でサポートされるようになりました。

- ・ Solid EdgeのドラフトファイルをAutoCADにエクスポートするときは、**Solid EdgeからAutoCADへの変換ウィザード(線種マッピング)**を使用して、Solid Edgeのユーザー設定の線種をAutoCADの特定の線種に割当てることができます。以前は、ユーザー設定の線種は、連続線分としてAutoCADにエクスポートされました。

詳細情報は、Solid EdgeからAutoCADへの変換ウィザード(線種マッピング)を参照してください。

- ・ AutoCADファイルをSolid Edgeにインポートするときは、**AutoCADからSolid Edgeへの変換ウィザード - ステップ8の4**を使用して、AutoCADのユーザー設定の線種をSolid Edgeの特定の線種に割当てることができます。

詳細情報は、AutoCADからSolid Edgeへの変換ウィザード - ステップ8の4を参照してください。

AutoCAD へのエクスポート時にブロック内のプロパティテキストを新たにサポート

Solid Edge では、AutoCAD へのエクスポート時にブロック内のプロパティテキストがサポートされるようになりました。

お客様の多くは、タイトルブロック領域の一部として背景シート上にブロックを配置するために、ブロック内のプロパティテキスト %[シート名] または %[シート番号] を使用しています。これにより、お客様がドラフト文書にシートを追加する際に自動ナンバリングスキームが提供されます。

以前のバージョンでは、ペーパースペースとしてドラフト文書を AutoCAD にエクスポートした場合、ブロック内のプロパティテキスト %[シート名] または %[シート番号] がサポートされていなかったため、シート名とシート番号は各シートで同一でした。

ST9 では、各シートのブロック内の引出テキストボックスで、または各シートのブロックラベル内で使用したプロパティテキスト %[シート名] または %[シート番号] によって、エクスポートされるシートごとにそのブロック固有の要素が作成されます。

Industry Foundation Class(.ifc)へのエクスポートの機能強化

- ・ IFC (.ifc)のエクスポートオプションダイアログボックスの新しいIFCプロパティセットオプションは、エクスポート中にExcelスプレッドシートで見つかったIFCプロパティセットをIFCファイルに追加します。
- ・ 2つの新しいパラメータが`seifc.ini`ファイルに追加されました。
 - IFCプロパティセットをエクスポートは、Excelファイルで見つかったIFCプロパティセットを、エクスポート中に作成されるIFCファイルに追加するかどうかを指定します。
 - IFCプロパティセットパス=は、エクスポート中に作成されるIFCファイルに含めるプロパティセットを含むExcelファイルの完全パスと名前を定義します。

詳細については、IFCへの保存のヘルプトピックを参照してください。

アダプターを使用したJTのエクスポート

JTファイルをエクスポートするための新しい変換プログラムが、ST 10の既存のJT変換プログラムの代わりとなります。ST9では、**Solid EdgeからJTへの変換のオプション**ダイアログボックスの**旧式変換プログラムを使用**および**ベータ変換プログラムを使用**オプションを使用して、使用する変換プログラムを指定することができます。

注記

ベータ変換プログラムは、断面ビューを除くPMIをサポートし、テクスチャはサポートしません。

単純化ボディのインポートとエクスポートにおける機能強化

Solid EdgeからJTへの変換のオプションダイアログボックスの新しい**パーツの単純化**および**アセンブリの単純化**オプションにより、Solid EdgeファイルのJTへのエクスポートが機能強化されています。

パーツの単純化では、以下を指定することができます。

- ・ **現在の構成を使用** – 現在の構成を使用してJT文書を作成します。
- ・ **すべての単純化** – 各パーツをチェックし、使用可能な場合は単純化ボディを使用してJT文書を作成します。
- ・ **すべてのデザイン** – 各パーツをチェックし、使用可能な場合はデザインボディを使用してJTファイルを作成します。

アセンブリの単純化では、**パーツの単純化**で使用可能な同じ値と共に、以下を指定することができます。

- ・ **トップレベルの単純化** – アセンブリのトップレベルをチェックし、使用可能な場合は単純化ボディを使用してJT文書を作成します。

注記

View & Markupでアセンブリを開いている場合、**View & Markup**タブ、**オプション**ダイアログボックスでも、これらのオプションを使用可能です。

この新しい機能をサポートするため、ファイル、**SePvTrn.ini**、**SEECtoJT.ini**、および**InsightXTtoJt.ini**ファイルでパラメータが変更されました。

- ・ ApplySimplifiedTopAsmOverride、ApplySimplifiedSubAsmOverride、およびApplySimplifiedPartOverrideパラメータが、.iniファイルから削除されました。
- ・ 2つの新しいパラメータが、.iniファイルに追加されました。
 - 単純化パーツをエクスポート – アセンブリをエクスポートするときに、いつ単純化パーツを使用するか指定可能な値は、**すべてのデザイン**、**すべての単純化**、および**現在の構成を使用**です。デフォルト値は、**現在の構成を使用**です。
 - アセンブリ単純化をエクスポート – いつ単純化サブアセンブリを使用するかを指定可能な値は、**すべてのデザイン**、**すべての単純化**、**トップレベル構成**、および**現在の構成を使用**です。デフォルト値は、**現在の構成を使用**です。

AutoCADファイルのインポートでサポートされる寸法の変換

AutoCAD dxfおよびdwgファイルをパーツまたはアセンブリスケッチにインポートするときに、長さ、角度、直径、および半径寸法の変換がサポートされます。これらの寸法のアセンブリスケッチへの変換は、寸法のドラフトへの変換と同じです。

寸法をスケッチにインポートするときに、それらは線分と弧の要素にアタッチされません。変換された寸法の線分と弧は、**_Translation**レイヤ上に配置される作図補助要素です。このレイヤは、デフォルトでオフとなっています。新しい寸法を再アタッチまたは作成して幾何形状を変更する必要があります。つまり、これらの寸法は単なる参照寸法です。

エクスポート中のアセンブリの優先設定値の機能強化

STEPおよびIFCへのエクスポート中のアセンブリの優先設定値に機能強化が行われています。

- ・ アセンブリフィーチャは、エクスポート中に一意性をチェックされます。同一のサブアセンブリにアセンブリフィーチャを追加しても、追加のサブアセンブリは作成されません。
- ・ 現在の表示構成でアセンブリをエクスポートするときに、アセンブリの優先設定値の表示および非表示がサポートされます。
- ・ アセンブリの色のオーバーライドが、アセンブリ内の同じ要素のすべてのインスタンスに適用されるようになりました。同じパーツの複数の要素が異なるアセンブリ色を持つ場合、1色のみがすべての要素に適用されます。
- ・ **STEP (.stp)のエクスポートオプションダイアログボックスおよびIFC (.ifc)のエクスポートオプションダイアログボックスの新しいパーツの単純化とアセンブリの単純化のオプション**で、STEPまたはIFCにSolid Edgeファイルをエクスポートする機能を強化します。

パーツの単純化では、以下を指定することができます。

- **現在の構成を使用** – 現在の構成を使用して、STEPまたはIFC文書を作成します。
- **すべての単純化** – 各パーツで、単純化ボディが使用可能かをチェックして、可能な場合は、STEPまたはIFC文書を作成するときに単純化ボディを使用します。
- **すべてのデザイン** – 各パーツで、デザインボディが使用可能かをチェックして、可能な場合は、STEPまたはIFCファイルを作成するときにデザインボディを使用します。

アセンブリの単純化では、**パーツの単純化**で使用可能な同じ値と共に、以下を指定することができます。

- **トップレベルの単純化** – トップレベルアセンブリで、単純化ボディが使用可能かをチェックして、可能な場合は、STEPまたはIFC文書を作成するときに単純化ボディを使用します。
- この新しい機能をサポートするために、2つの新しいパラメータが**STEP.ini**と**SEIFC.ini**ファイルに追加されました。
 - **単純化パーツをエクスポート** – アセンブリをエクスポートするときに、いつ単純化パーツを使用するかを指定可能な値は、**すべてのデザイン**、**すべての単純化**、および**現在の構成を使用**です。デフォルト値は、**すべてのデザイン**です。
 - **アセンブリ単純化をエクスポート** – いつ単純化サブアセンブリを使用するかを指定可能な値は、**すべてのデザイン**、**すべての単純化**、**トップレベル構成**、および**現在の構成を使用**です。デフォルト値は、**すべてのデザイン**です。

AutoCADフォントを使用してメカニカルシンボルをエクスポートする

Seacad.iniファイルでAutoCADフォントパラメータを使用する、新しいエクスポートメカニカルシンボルは、Solid Edgeのフォントの代わりに、AutoCADのフォントを使用するSolid Edgeメカニカルシンボルを指定します。デフォルト値は、0です。値を1に設定すると、可能な場合はGDT.tffフォントを使用し、可能でない場合は引出テキストボックスおよびバルーンでのみメカニカルシンボルで作図することが指定されます。

注記

ST9ではこのパラメータは開発中ですが、役立つことが判明した場合はそれを使用することができます。

詳細情報は、AutoCADへの保存を参照してください。

3D点のインポートおよびエクスポートのサポート開始

Solid Edgeは、STEPおよびIGES文書で作業中の3D点のインポートおよびエクスポートをサポートするようになりました。

STEP文書をSolid Edgeにインポートする時は、**STEP (.stp)のインポートオプション**ダイアログボックスの**曲線および点をインポート**オプションを使用して、3D点をインポートします。IGES文書をSolid Edgeにインポートするときは、**IGESインポート変換ウィザード - 幾何形状のタイプ**ダイアログボックスの**ワイヤフレームおよび点**オプションまたは**曲面、ソリッド、ワイヤフレーム、および点**オプションを使用して、3D点をインポートします。

インポートした3D点は、Solid Edgeでは単一の3Dスケッチ内の点になります。

3D点を含むSolid Edge文書をSTEPまたはIGESにエクスポートするときは、**STEP (.stp)のエクスポートオプション**ダイアログボックス、または**IGESエクスポート変換ウィザード - タイプ**ダイアログボックスの**ワイヤと点をエクスポート**オプションを使用します。

PDFで自動的に回転するテキスト

PDFのエクスポートオプションダイアログボックスの、新しいテキストを読みやすくするために、シートを自動で回転するオプションでは、テキストの向きが水平に位置揃えされるように図面シートを自動的に回転させます。

公差文字の高さのオーバーライド

次の新しいパラメータが、SEACAD.iniファイルに追加されました。

- ・ 公差文字の高さのインポート - DXF文書からインポートされるテキストの、静的公差文字の高さのオーバーライドを指定します。デフォルト値は0で、0またはそれ以上の任意の実数が有効です。

JT変換中のエクスポートのでの書出式

新しい*DocnameFormula*を使用してエクスポートパラメータは、JTへのエクスポート時に、ファイル名または文書名の命名規則を使用するかどうかを指定します。**DocnameFormula=0**を使用してエクスポートを設定すると、ファイル名を使用することを指定します。**DocnameFormula=1**を使用してエクスポートを設定すると、文書名の命名規則を使用することを指定します。

このパラメータは、以下のファイルで使用することができます。

- ・ SePvTrn.ini
- ・ SE2VM.ini

注記

Solid Edgeで**View Markupで開く**コマンドを使用すると、このパラメータが自動的に有効になります。JTにエクスポートするときこの機能を使用する場合は、.iniファイルを使用してパラメータを有効にする必要があります。

JT変換中に埋込まれたボディに書出された親プロパティ

Teamcenter管理環境では、アセンブリ内の親オブジェクトのプロパティ値は、JTへの変換時にアセンブリ内の埋込みボディに書出されるようになりました。

SolidWorks データ移行の機能強化

SolidWorks データ移行コマンドは、関連付き図面ビューの移行を含めるように強化されました。移行された Solid Edge パーツおよびアセンブリのファイルを更新すると、Solid Edge ドラフトファイルが更新されるようになります。移行プロセスでは、得られる Solid Edge のパーツおよびアセンブリのファイルと移行された Solid Edge 図面ファイルとの間にリンクが確立されます。Solid Edge 図面ビューは、SolidWorks の図面ビューの場所、タイプ、および尺度に基づいて作成されます。

SolidWorks ファイルを移行すると、以下の内容が適用されます。

- ・ SolidWorks で作成されたすべての図面ビューのタイプがサポートされます。
- ・ 切断線、補助投影ビュー平面の線、および詳細枠がサポートされます。
- ・ SolidWorks から移行された寸法は、Solid Edge 図面ビューの幾何形状に拘束されます。
- ・ 中心記号および中心線は Solid Edge 図面ビューに関連付けられます。
- ・ ハッチングと塗りつぶしは、それらの関連性を維持したまま、Solid Edge 図面ビューに移行されます。
- ・ ビューのシェーディングは、この図面ビューの作成プロセスの一部として維持されます。
- ・ 複数シートの図面は、この移行プロセスを通してサポートされます。

注記

バルーンと引出テキストボックスなどの注釈は、Solid Edge の注釈としてではなく、ブロックとして移行されます。

Siemens Industry Software

Headquarters

Granite Park One
5800 Granite Parkway
Suite 600
Plano, TX 75024
USA
+1 972 987 3000

Americas

Granite Park One
5800 Granite Parkway
Suite 600
Plano, TX 75024
USA
+1 314 264 8499

Europe

Stephenson House
Sir William Siemens Square
Frimley, Camberley
Surrey, GU16 8QD
+44 (0) 1276 413200

Asia-Pacific

Suites 4301-4302, 43/F
AIA Kowloon Tower, Landmark East
100 How Ming Street
Kwun Tong, Kowloon
Hong Kong
+852 2230 3308

日本

〒151-8583
東京都渋谷区
代々木2-2-1
小田急サザンタワー
Tel: +81 (0)3-5354-6700
Fax: +81 (0)3-5354-6780

シーメンスPLMソフトウェアについて

シーメンスPLMソフトウェアは、シーメンス産業オートメーション事業部のビジネスユニットで、PLM(製品ライフサイクル管理)ソフトウェアおよび関連サービスにおいて世界をリードするPLMプロバイダです。これまで世界7万 1,000社のお客さまにサービスを提供し、700万ライセンスにおよぶソフトウェア販売実績を上げています。米国テキサス州プラノを本拠地として、数多くの企業と協働して、豊富なアイデアを価値ある製品に変えるオープンなソリューションを提供しています。シーメンスPLMソフトウェアの製品やサービスに関する詳細は、www.siemens.com/plm にてご覧いただけます。

© 2016 Siemens Product Lifecycle Management Software Inc. All rights reserved. Siemens および Siemens のロゴは、Siemens AG の登録商標です。D-Cubed、Femap、Geolus、GO PLM、I-deas、Insight、JT、NX、Parasolid、SolidEdge、Teamcenter、Tecnomatix および Velocity Series は、Siemens Product Lifecycle Management Software Inc. またはその子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他のロゴ、商標、登録商標またはサービスマークはそれぞれ各所有者に帰属します。